

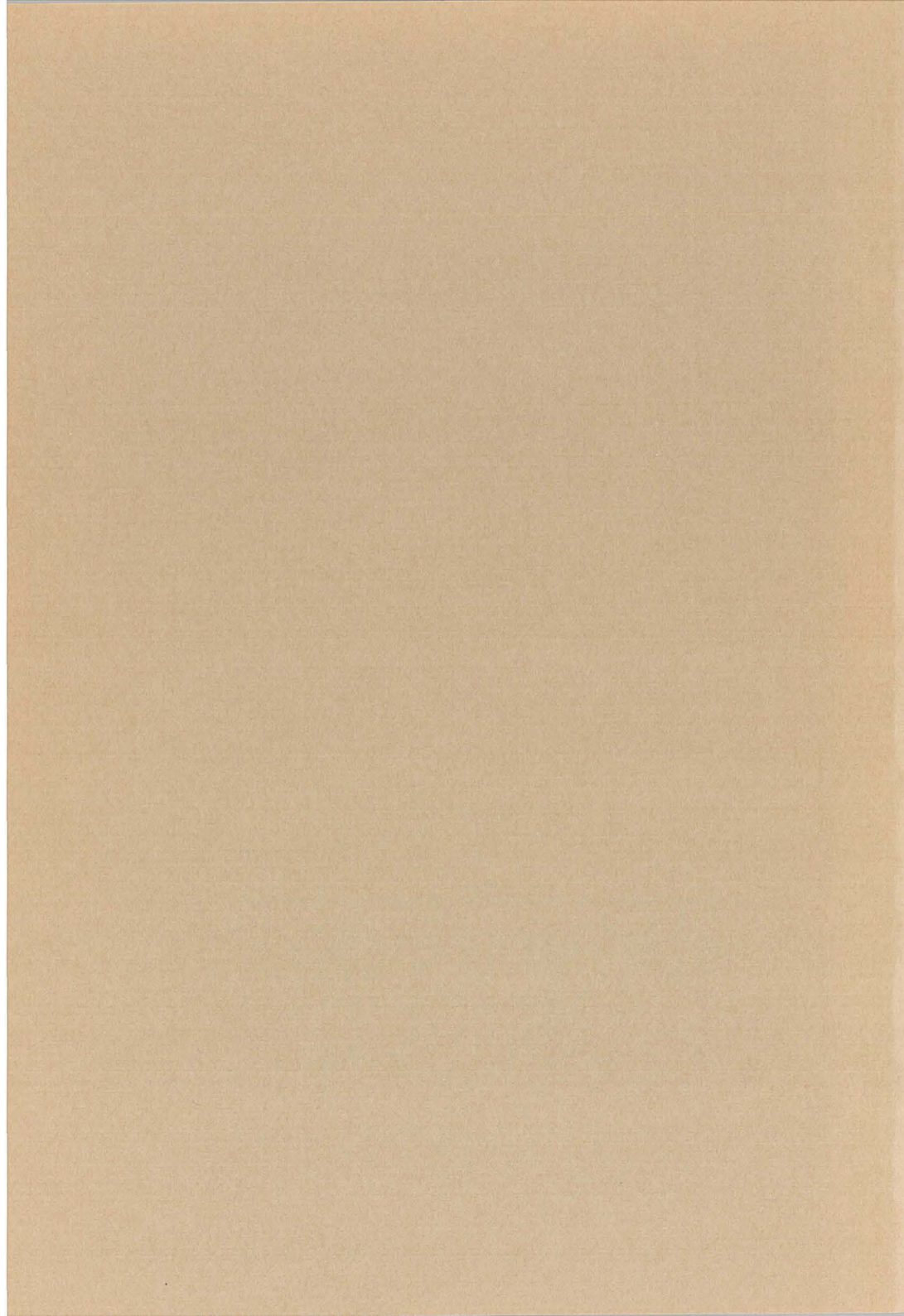
ISSN 1344-476X

財団
法人

東洋文庫年報

平成 15 年度

財団法人 東洋文庫



目次

I	平成15年度の東洋文庫	1
II	図書事業	5
	1. 資料の収集	5
	2. 資料の整理	7
	3. 資料の利用と複写サービス	7
	4. 書庫資料の見学と研修	11
	5. 資料の保存整理と複製	11
	6. 業務の機械化	12
	7. 書庫内資料と書架スペース	14
III	研究事業	15
	1. 調査研究	15
	A 超域アジア研究部門	15
	B アジア諸地域研究	19
	C 平成15年度 研究部5部門11研究班 研究組織	27
	D 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究	33
	E その他の民間学術助成金による調査研究	37
	2. 学術図書出版	39
	3. 講演会	40
	4. 学術情報提供	43
	A 研究者の交流および便宜供与のサービス	43
	B 各種研究会等への会場提供サービス	49
	C 研究資料の複製・増刷の刊行サービス	49
	D 参考情報提供のサービス	49
	E 広報普及	49
	5. 職員の研究業績	50

IV 業務報告	75
1. 総務報告	75
2. 人事報告	78
3. 会計報告	81
V 役職員名簿	82
1. 役員	82
2. 東洋学連絡委員会委員	83
3. 名誉研究員	83
4. 職員	84
5. 臨時職員	89

I 平成15年度の東洋文庫

平成15年度に東洋文庫が実施した事業内容の概略はつぎの通りである。

はじめに、役員・委員の異動のうち、訃報に触れなければならない。東洋文庫の第10代の理事長として、平成2年4月の就任から同13年6月の退任にいたる11年間にわたり、文庫を代表して事業を推進する重責に当たられ、退任後は名誉顧問に就任されていた北村甫教授は、平成15年12月16日に享年80歳をもって逝去された。同教授は若くしてチベット語の音声言語学的研究者として著聞し、昭和33年に東洋文庫の専任研究員に招かれて〈蔵和辞典編集委員会〉に属し、同35年にこれが〈チベット研究室〉に改められて言語・宗教・歴史を総合するプロジェクトに発展するとともに、その事業推進の主役を担う役を果たされ、昭和39年に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に奉職後も、東洋文庫の兼任研究員（平成15年12月）として〈チベット研究室〉の諸般の活動を主宰され、この間、多くのチベット古典籍の整理と復刻に尽力された。また昭和62年6月から平成3年6月にかけては東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化センターの所長、昭和63年6月から平成15年6月にかけては東洋文庫の理事を勤められた。理事長職への就任は故榎一雄理事長の急逝（平成元年11月）のあとを承けたものであるとともに、文庫の財政・研究の体制がさまざまな難局に向かいつつあった時期に当たっていた。故北村理事長はこの火急の事態をのりこえるべく方策をめぐらすことに渾身の努力を傾けられたのである。

同じく東洋文庫の運営と研究事業に長期にわたって貢献を尽くしてこられた神田信夫教授は、平成15年12月30日に享年82歳をもって逝去された。同教授は東洋文庫の先達者、故和田清博士の学統を継承し、なかならず満州族のおこりから清朝の盛世にいたる歴史についての希有の専門家として内外に名声を知られていた。東洋文庫において昭和28～38年、文部省の助成のもとおこなわれた満文老檔の訳註とその刊行をめぐる事業（33年からは〈清代史研究委員会〉の事業）の中心となり、またロックフェラー財団の助成で28年から発足した〈近代史研究委員会〉においてもその中心メンバーとして活躍された。神田教授は35年6月以降逝去までの44年間、東洋文庫の兼任研究員に任じ、56年6月から平成11年6月までは評議員、平成11年6月から15年6月までは理事、平成15年4月より同年12月までは東洋学連絡委員を歴任された。このように東洋文庫の事業の運営について永年献身的な熱意を注いでこられた北村甫、神田信夫両教授が、財団開設の80周年を今秋に迎える直前において道山に帰されたことは、惜しみてあまりあることであり、ご尽力に深く謝するとともにご冥福を心よりお祈りする次第である。

このほかの異動として、平成15年6月の理事会において原實教授の理事就任、評議員では大崎仁国立学校財務センター所長、梅村坦教授、濱下武志教授の就任、および役職指定の評議員のうち、早稲田大学の奥島孝康総長から白井克彦総長への交替が了承された。東洋学連絡委員会においては、その委員として、あらたに神田信夫教授（12月30日逝去、退任）、中根千枝、石井米雄両教授に参加を委嘱した。同委員会は東洋文庫の毎年度の事業の計画および実施経過についての報告をうけて、東洋学全般にわたる大所高所からの評価と助言をいただくことをその役割としている。ほかに、平成15年4月に研究顧問を設け、前附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長の石井米雄教授に委嘱した。

さて、平成15年度の事業のなかの大きな項目として、前年度にひきつづき、（1）財政の健全かつ適正な運営、（2）研究体制の刷新と改組、そして（3）平成16年度に向けた80周年記念事業への取り組みがあげられる。文庫の諸財源収益のうち、自己財源収益は財団基本金の運営および三菱各社等による維持会費からの寄付金収入をその柱とし、ほかに若干の複写サービスや出版などにもなる研究活動の収入がある。そのなかで基本金運営による収入は、平成6年以降、歴年の金利の低下のために激減を示し、これが経常経費の運営にとどまらず、研究事業の運営にも、大きな不安材料をもたらしている。平成15年度は、前々年度、前年度にひきつづき営繕修理の先送りを含む経常経費支出のできる限りの削減と緊縮につとめ、また基金運営に一段の工夫をこらすなどの方策によって、相応程度の赤字幅の縮減をなし遂げたとはいえ、この危機を抜け出すためには支出を引き締めて収支の均衡をはかる努力をさらにつづけて行かざるを得ない。

この状況下にあって、研究事業および図書館事業の遂行においては、幸いにして大きな活力が与えられた。すなわち文部科学省平成15年度科学研究費補助金（特定奨励費）の増額である。これは、平成14年度をもって附置ユネスコ東アジア文化研究センターの事業が終結したことに対応して、東洋文庫が企画立案し、旧来の研究と収書の活動全般を見直し刷新しつつ、新時代の要請にも応え得る構想として、文部科学省当局に対して「東洋学文献の収集・研究および東アジア地域の総合的文化研究に関する事業」として申請した新規の事業計画およびその事業予算であって、申請どおりに認可された。この事業は、これまでの80年間、東洋学の資料センターとして、またこれを活用した研究・出版活動において、組織的に積み上げてきた過去の実績および貴重な蔵書資料の存在を背景として、一面で精緻で着実な歴史・言語・社会文化についての基礎研究、これに見合う資料の充足を今後も重視することにとどまらず、他面で現代中国および現代イスラームの興隆にみられるような、世界規模の激変、国際化、流動化をともなる現代史的

な新しい局面を、アジア研究における等しく重要な分野として位置づけ、積極的な資料収集に取り組みつつ、対象の分析を学際的・学融合的な方法を駆使して究めようとするものである。

このため、これまで歴史・文化の角度に（文献学的・人文学的な角度に）偏し勝ちであった研究体制を抜本的に再編成して、全体を大きく「超域現代研究」と「歴史・文化研究」に2大別した。その上で前者は現代中国研究班と現代イスラーム研究班に分かれて〈超域アジア研究部門〉を構成し、後者は〈東アジア研究部門（4研究班）〉〈内陸アジア研究部門（2研究班）〉〈インド・東南アジア研究部門（2研究班）〉〈西アジア研究部門（1研究班）〉に分別した。この構成のもとで、個々の「研究班」は一定の年数内に予定の成果を公刊するための、大中小規模のプロジェクト研究を実行する単位となり、それぞれが定期的に研究会を開き、必要に応じて講演会、シンポジウム、国内外の研究者・図書館との交流を行い、年度末には年次報告を提出しながら、所定年限内に成果の刊行を期する体制になった。11研究班によるプロジェクト事業および資料の収集に要する経費は、「特定奨励費」を主要な財源にしなが、日本学術振興会科学研究費補助金による「基盤研究」、および「三菱財団人文科学研究助成金」などの特別事業の財源を合わせて実施されている。この新研究体制のもとで、平成15年度に刊行されたおもな刊行物としては、衛藤藩吉著 *Political History of Modern China*（東洋文庫新欧文論叢 no.4）『超域アジア研究報告--付 歴史・文化研究--』『宋史食貨志訳註（五）』『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅳ』などがあり、ほかに Erjuman (Bahchesaray, 1906-1917), Turkestan Viloyatining Gazeti (Tashkent, 1870-1917), Shura (Orenburg, 1908-1915), Ayaina (Samarkand, 1913-1915), Oizil bayrak (Tashkent, 1921), Turkestan (Tashkent, 1923-1924), Rahbar-i Danish (Samarkand, 1928-1930) などの新聞類のデータベース化があり、引き続きこのペースを持続して行かなければならない。

なお、国内のみならず海外の東洋学の専門図書館においては、所蔵資料の電子化およびその OPAC 公開、機関や図書館相互の交換が年ごとに増大し、関連する技術も日々進化を遂げている。もとより「特定奨励費」「科学研究費 基盤研究」などによる助成に対し、所蔵・所収の資料を敏速に公開して広く公共の用に供すべきことはいうまでもない。東洋文庫は平成6年度以降、科学研究費による《研究成果公開促進費（データベース等）》の補助を受け、これを足がかりにして電子化による所蔵資料公開の作業に努力してきた。たとえば当文庫がすでに刊行している各種の冊子体の目録情報をデータベース化して、インターネットなどを通じて利用者の検索に供する作業は、所蔵の総数約35万件（約80万冊）のう

ち、ほぼ70%以上を遡及入力して公共の利用に供しており、これを反映して外部利用者からのインターネットによる所蔵資料の検索の件数が激増している。

80周年記念事業の一環としては、(1) 80周年史の刊行準備、(2) 特別展示の開催、および(3) 記念東洋学講座の連続開催の3事業を推進した。(1) の80周年史については、すでに海外および国内の東洋文庫と関係の深い方々に依頼した寄稿の文章が集まり、また同書に収録する資料篇の原稿はほぼととのい、これにともない本文篇の編集にとりかかった。(2) の特別展示は平成15年12月23日より平成16年1月12日まで、丸の内ビルディング7階の丸ビルホールを会場として催された。これは千代田区役所が江戸開府400年を記念する事業として、年間を通じて挙行した一連の諸行事の一環をなし、その年末最終のイベントであり、千代田区の同上の記念事業実行委員会・NHK・日本経済新聞社と東洋文庫が合同で主催者となった。展示会のテーマは「東洋文庫名品展」(副題は北斎、歌麿、写楽……秘蔵の浮世絵から東方見聞録、解体新書まで)と名付け、岩崎文庫に含まれる北斎、歌麿、春信、写楽、清信らの浮世絵の名品を中心とし、これに若干のアジア、日本関係の書籍・地図・絵画などの貴重資料を添えて計80点を展示した。この展覧会は好評を博し、会期中に22,800名の入場者をえて盛会裡に閉幕した。(3) の東洋学講座は春秋にわたって「東洋文庫創立80周年記念講演会」春秋(第3回)及び、秋期(第4回)が催され、春期は〈中国地方志・族譜の伝統〉、秋期は〈現地史料から見るイスラーム世界—アラブ・ペルシャ・トルコ—〉をテーマとしてそれぞれ3回の連続講演を行い、これも前年度と同様に盛況裡に終わった。(斯波義信)

Ⅱ 図 書 事 業

1. 資 料 の 収 集

(1) 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は26,882,969円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)
超域・現代中国研究	734	27	761
超域・現代イスラーム研究	4	1,644	1,648
東アジア研究	1,327	47	1,374
内陸アジア研究	33	276	309
インド・東南アジア研究	0	715	715
西アジア研究	0	870	870
非図書資料	0	21	21
計	2,098	3,600	5,698

主な購入資料としては、以下のものがある。

新編中華人民共和国地方志	152冊
中国旧海関資料	170冊
中華人民共和国法典	123冊
中国交通50年成就	27冊
後柏原院御日次結題	1冊
イラン発行ペルシア語資料(議会文書等)	433冊
シリア発行アラビア語資料	197冊
エジプト発行アラビア語資料	546冊
トルコ発行トルコ語等資料	556冊

(2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	1,674	1,393	3,067	892	456	1,348
定期刊行物	3,473	1,497	4,970	2,520	1,722	4,242
非図書資料	0	0	0	0	0	0
計	5,147	2,890	8,037	3,412	2,178	5,590

主な受贈資料としては、以下のものがある。

「東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究」班寄贈	177冊
東北アジア関係資料	
北村甫氏旧蔵 チベット関係資料	142冊
井上四郎氏寄贈 井上準之助旧蔵欧文図書	33冊
国史編纂委員会寄贈 韓文資料	29冊
山本達郎氏旧蔵 東南アジア関係資料	1,134冊
民族文化推進会寄贈 影印標点韓国文集叢刊等韓文資料	72冊
笹川平和財団寄贈 インド関係資料	31冊

資料室では上記以外に重複図書等の有効活用を図るため、内外の諸機関に交換用の図書リストを提供している。

2003年度は3機関に対して交換リストを送付した。

交換機関	送付リスト	送付図書数
Bureau of International Exchange of Publications, National Central Library R. O. C.	欧文、中文、日文図書 100タイトル	31タイトル
East Asian Library, 207D Hillman Library, Pittsburgh University U. S. A.	中文、日文図書 130タイトル	20タイトル
Inter-Library Cooperation Division National Assembly Library KOREA	日文、中文、欧文図書, CD-ROM, VIDEO TAPE 100タイトル	31タイトル

(3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は898,542冊で、和漢書509,862冊、洋書358,880冊、複写資料29,800冊である。

2. 資料の整理

(1) 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	4,599冊
欧米語図書	970冊
アジア諸言語図書	2,808冊

整理したおもな図書

- | | |
|--------------------------|------|
| (1) 新編中華人民共和国地方志 | 293冊 |
| (2) 続修四庫全書 卷1541-1800 集部 | 260冊 |
| (3) 中国民族問題報告書コレクション | 149冊 |

(2) 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文107タイトル、欧文92タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	781	265	3,327	1,486
購入	136	108	491	251
小計	917	373	3,818	1,737
計	1,290		5,555	

(3) 新聞

本年度は17種（何れも中文）を受入れた。

3. 資料の利用と複写サービス

(1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は230名で、内訳は教職員90名（外国人26名）、研究機関関係者11名（外国人7名）、大学院生56名（外国人13名）、大学生69名（外国人11名）、その他4名であった。

閲覧開館日は233日、利用者数は3,045名、利用資料数は47,861冊で、詳細は下表のとおりであった。

なお、東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ591名、2,226冊であった。

開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
平成15年 4月	20 (日)	203 (人)	11 (人)	△6 (人)
5	20	255	13	35
6	20	222	12	15
7	21	314	15	59
8	20	324	17	24
9	19	282	15	27
10	21	247	12	△69
11	16	215	14	△26
12	18	267	15	43
平成16年 1	18	214	12	34
2	18	228	13	△28
3	22	274	13	△1
計	233	3,045	14	107

閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成15年 4月	77	104	273	1,635	166	521	516	2,260	113	△658
5	182	341	325	1,926	238	686	745	2,953	148	△334
6	144	280	368	2,101	155	510	667	2,891	145	414
7	201	474	525	4,337	254	409	980	5,220	249	877
8	182	554	714	4,438	208	448	1,104	5,440	272	△295
9	163	636	564	2,967	311	1,394	1,038	4,997	263	△137
10	134	272	370	2,420	256	925	760	3,617	173	△1,333
11	107	270	429	3,190	204	625	740	4,085	256	1,047
12	143	296	392	3,157	229	527	764	3,980	222	318
平成16年 1	117	338	410	3,268	203	450	730	4,056	226	1,425
2	138	777	453	2,878	164	482	755	4,137	230	946
3	189	446	474	3,188	267	591	930	4,225	193	1,069
計	1,777	4,788	5,297	35,505	2,655	7,568	9,729	47,861	206	3,339
比率	10.0%		74.2%		15.8%		100%			

(2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齎数	紙焼提供枚数	フィルム提供齎数
563	30,144	35,530	9,147

電子複写

申込件数	提供枚数
888	50,148

(3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて1,037件であった。

(4) 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は6件で、詳細は次のとおりである。

展覧会への資料貸出一覧

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	「自然と共に 日本の風土と美」展	世田谷美術館	平成15. 2. 8 ～ 5. 5	世田谷美術館	【諸国流廻り】全8点
2	「ペリー来航150周年記念 黒船」展	神奈川県立歴史博物館 文化庁	平成15. 4. 26 ～ 6. 15	神奈川県立歴史博物館	Duncan : The Hon. E. I. Co. iron steam ship Nemesis, ~. はじめ全16点
3	「黎明館企画特別展 『激動の明治維新』」展	鹿児島県歴史資料 センター黎明館 株式会社南日本新聞社 南日本放送株式会社 財団法人自治総合 センター	平成15. 10. 3 ～ 11. 3	鹿児島県歴史資料 センター黎明館	Platt: The signing and sealing of the treaty of Nanking, ~. はじめ全4点
4	「捕る 愛でる 拝む 一人と動物展」	新潟県立歴史博物館	平成15. 10. 4 ～ 11. 26	新潟県立歴史博物館	【禽鏡】はじめ全3点
5	企画展「おかげまいりと ええじゃないか」	豊橋市美術博物館	平成15. 10. 25 ～ 11. 30	豊橋市美術博物館	【馬之塔図会】 はじめ全5点
6	「特別展示会 東南アジア の人々と生活」	国立国会図書館	平成16. 3. 8 ～ 3. 27	国立国会図書館 関西館大会議室	Raffls : History of Java. はじめ全5点

4. 書庫資料の見学と研修

申請は17件あり、191名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。
 なお、このほかに当日申込の書庫見学が41件93名あった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
	平成15年				
1	4月4日	胡 龍 子	国立国会図書館職員	10	書庫及び所蔵資料見学
2	4月22日	門 脇 廣 文	大東文化大学学生	10	〃
3	4月23日	本 野 英 一	早稲田大学学生	5	〃
4	4月23日	古 田 和 子	慶応義塾大学学生	10	〃
5	5月7日	佐 藤 次 高	早稲田大学学生	20	〃
6	5月22日	小 松 久 男	東京大学学生	15	〃
7	5月23日	小 秋 元 段	法政大学学生	15	〃
8	6月5日	三 浦 徹 徹	お茶の水女子大学学生	15	〃
9	7月2日	小 松 香 織	筑波大学学生	12	〃
10	7月3日	田 中 明 彦	東京大学東洋文化研究所研修生	10	〃
11	7月16日	長谷岡 英 信	真宗大谷派親鸞仏教センター職員	4	〃
12	11月4日	松 重 充 浩	日本大学学生	7	〃
13	11月26日	三菱広報委員会	三菱広報委員会主催視察会一行	16	〃
14	12月5日	高 田 幸 男	明治大学学生	9	〃
	平成16年				
15	1月29日	山 口 昭 彦	聖心女子大学学生	9	〃
16	2月12日	三菱広報委員会	三菱ゆかりの地見学会一行	19	所蔵資料見学
17	3月12日	太 田 幸 男	陝西師範大学教員	5	書庫及び所蔵資料見学

5. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への交換を行った。作業項目と内容は下記のとおりである。

(1) 漢籍地方志

継続している作業で、本年度は、分類記号Ⅱ-11-B-1-137～Ⅱ-11-B-m-106までを対象。

裏打ち 2,902葉、綴じ直し 61冊、帙作製 10ヶ。

(2) 貴重洋書 (Old books)

継続している作業で、本年度は、分類記号 O-2-B-5 ~ O-2-C-59 を対象。

清掃、クリーニング、オイリング及びラッパー作製 176冊。

(3) その他の書庫内資料

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。

本製本 (洋、和) 92冊、再製本と簡易製本 68冊、一枚物 56点、帙およびラッパー作製 8ヶ、補修3,559枚、整理保全 103点。

雑誌合冊製本 (外注) 1,569冊。

(4) 資料の撮影 41,175コマ

対象資料：漢籍稀覯書、アラビア語の劣化・破損資料

(5) 活用フィルム作製のためのポジフィルムの作製 75リール

撮影した漢籍稀覯書およびアラビア語の劣化・破損資料のネガフィルムを対象にポジフィルムの作製を行った。

6. 業務の機械化

引き続きデータベースの入力作業を継続する一方、インターネット上でのオンライン検索ができるよう作業を進めた。まとまりのある資料群ごとに順次データを公開しており、平成15年度末現在、東洋文庫の Web ページでオンライン検索の可能な目録データベースは下記の25種である。このうち (19) 以下が平成15年度新規公開分である。

- | | |
|----------------------------|---------------|
| (1) 近代日本関係 日本語文献目録 | (約6,000件収録) |
| (2) 東洋文庫所蔵 漢籍資料 | (約2万4,000件収録) |
| (3) 東洋文庫・東文研所蔵 アラビア語図書 | (約1万2,000件収録) |
| (4) 東洋文庫・東文研・東外大所蔵 ペルシャ語図書 | (約8,100件収録) |
| (5) 東洋文庫所蔵 現代トルコ語図書 | (約8,400件収録) |
| (6) 近代中国研究委員会収集 日本文図書 | (約1万4,000件収録) |
| (7) 近代中国研究委員会収集 欧文図書 | (約6,900件収録) |
| (8) 近代中国研究委員会収集 新収図書目録 | (約1万件収録) |
| (9) 辻直四郎文庫 欧文図書 | (約7,300件収録) |

- | | | |
|------|-----------------------------|---------------|
| (10) | モリソン二世文庫・ベラルデ文庫 | (約4,000件収録) |
| (11) | 東洋文庫所蔵洋書目録 (KOREA の部) (PDF) | (約900件収録) |
| (12) | 榎文庫 欧文図書 | (約4,000件収録) |
| (13) | 近代中国研究委員会収集 中国文図書 | (約2万7,000件収録) |
| (14) | オスマントルコ語図書全リスト (PDF) | (約1,400件収録) |
| (15) | キルギス語図書全リスト (PDF) | (約20件収録) |
| (16) | ウイグル語図書全リスト (PDF) | (約1,100件収録) |
| (17) | カザフ語図書全リスト (PDF) | (約240件収録) |
| (18) | 河口慧海将来チベット語蔵外文献 | (約500件収録) |
| (19) | スィンディー語図書 全リスト (PDF) | (約150件収録) |
| (20) | 中文逐次刊行物 (旧近代中国研究委員会収録) | (約2,500件収録) |
| (21) | 洋書目録 (Southeast Asia の部) | (約9,200件収録) |
| (22) | 韓国・朝鮮語図書 | (約4,200件収録) |
| (23) | 別置ロシア語目録 (PDF) | (約600件収録) |
| (24) | 新収洋書目録オンライン検索 | (約4,700件収録) |
| (25) | 洋書 America 目録 (PDF) | (約600件収録) |

蓄積データ件数は予定全体の7割強に達した。入力及び公開にむけての作業を次年度以降も引き続き進めていく予定である。同時に今後は、所蔵資料のデジタル化も積極的に推進していく計画である。

7. 書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧と新規排架および主な調整箇所

階	1号棟	新規排架・調整箇所	2号棟	新規排架・調整箇所
6	朝鮮本、安南本、満州本、 蒙古本、和書（XIII～XVII 大型）	辻文庫（洋書） 朝鮮本（Ⅶ）	/	
5	Old Books、PB、MS、 漢籍稀観書、岩崎文庫、 銅版画、古地図、梅原考 古資料、辻文庫・榎文庫 Old Books 及び線装本			
4	洋書（Ⅰ～Ⅺ・大型）、 モリソン二世文庫、ペラ ルテ文庫、ウイグル語資 料、ロシア語別置資料		トルコ語資料、榎文庫、 岩見文庫、ベルシア語資 料（P-A-1～P-L1- 761）、チベット語資料	
3	漢籍（経部・子部・集部・ 叢書・大型）、日本語・ ハングル新着雑誌		洋書（XIII～XVII・XIX） モリソンパンフレット、 アラビア語資料、ベルシ ア語資料（P-L1-762 ～P-Z-6）	
2	漢籍（史部）		近代中国研究委員会収集 資料	
1	逐次刊行物（日・中・朝・ 洋新聞）、中国語、欧文 新着雑誌		逐次刊行物（欧文）	

臨時書庫
梅原文庫（和漢書）
辻文庫（和漢書）

本年度の主な資料移動は以下のとおりである。

1. 書庫狭隘解消のため書庫棟外に臨時書庫を新たに設け、ここに1号棟5階の梅原文庫と辻文庫の和漢書、及び1号棟6階の資料を移動した。
2. 資料排架の適正化をはかるため、1号棟5階の辻文庫（洋書）を1号棟6階に移動した。
3. 1号棟6階の朝鮮本（Ⅶ）の排架調整をした。
4. 閲覧室内書架にアジア諸語資料を移動し、排架調整をおこなった。

Ⅲ 研究事業

平成15年度からは、アジアの現状と歴史・文化に関する研究事業の目的を達成するために、東洋文庫は従来5部門12研究委員会を廃止し、新たに中国・イスラーム圏研究を担う「超域アジア研究部門」を設けると共に、旧来の組織をアジア諸地域別の4部門に改編した（別表の組織図を参照）。

研究新体制下の研究事業は、以下のように超域アジア研究とアジア諸地域研究に区分し、各研究はプロジェクト研究あるいは基礎研究として実施される。研究体制を一新するに際し、新規研究員の追加委嘱等をはかり、研究活動の活性化と充実をめざす（別添の研究組織）。これらの研究を基礎に、日本のアジア研究の国際化をさらに促進すべく、その成果を出版（欧文等を含む）し、国内外に配布・紹介する。また、本事業によって達成された研究成果については、講演会・研究会などを通じて、あるいは電子メディア等を用いて広く一般に公開する。

また、調査研究は、文部科学省科学研究費（特定奨励費）補助金による事業と、日本学術振興会科学研究費補助金および民間学術研究助成金による特別等事業、あるいは東洋文庫学術情報提供費による事業にわかれる。

1. 調査研究

A. 超域アジア研究部門

(1) 「現代中国の総合的研究」

（超域アジア研究部門、現代中国研究班、総括・斯波 義信）

1949年の革命以後、国内で政治、経済、社会の激変を経験し、東アジアから世界にまで政治・経済的な影響力をもちつつある隣邦中国の全容を、歴史・文化の流れを含めて総合的に捉える研究体制を構築する。その基礎資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点にしながら、学際的研究・公開利用の観点から拡充と再編をはかる。

【研究実施概要】

「現代中国班」は、統一テーマを〈国際社会における現代中国の変容：持続と変革〉と定めた上、①《政治と外交》 ②《経済》 ③《国際関係・文化》の3グループを編成した。①4名 ②2名 ③4名を東洋文庫兼任研究員に委嘱、定

例の研究会を主軸にしながら研究発表、国内・海外の調査、資料の収集をおこなった。業績の出版では衛藤藩吉著 1 *Political History of Modern China* [東洋文庫欧文論叢・TBRL No. 4] (294ページ) を刊行、ほかに『中国学術雑誌全文データベース』歴史編・政治編のアクセス権を確保、さらに(財)日本国際問題研究所旧蔵の中国現代関係の新聞類を中心とする大量の資料を受贈し、また台北中央研究院、上海図書館、復旦大学、華東師範大学を歴訪して、デジタル化推進上の協力および資料・人員の交換・交流の協約をした。

① 研究会

a) 政治 (主査・毛里和子)

- ・ 日 時 平成15年12月 5日(金)
- ・ テーマ 「中国民主諸党派論」
- ・ 報告者 高橋祐三 (東海大学助教授・研究協力者)

- ・ 日 時 平成16年 2月10日(火)
- ・ テーマ 「アジアの民主化を巡る問題—要因・アクター・視点」
- ・ 報告者 岩崎育夫 (拓殖大学教授教授・研究協力者)

b) 経済 (主査・中兼和津次)

- ・ 日 時 平成15年12月20日(土)
- ・ テーマ 「中国化学工業の源流—永利化工・天源電化・満洲化学・満洲電化」
- ・ 報告者 田嶋俊雄 (東京大学教授・研究協力者)

c) 国際関係・文化 (主査・平野健一郎)

- ・ 日 時 平成15年10月25日(土)
- ・ テーマ 「中国抗日戦略とアメリカ対日経済制裁1937-41」
- ・ 報告者 土田哲夫 (中央大学教授・研究協力者)

- ・ 日 時 平成15年12月 7日(日)
- ・ テーマ 「韓国における中国研究の最近の状況について」
- ・ 報告者 張寅性 (ソウル国立大学教授・講演者)

- ・ 日 時 平成16年 2月 7日(土)
- ・ テーマ 「日中戦争期上海の難民救済問題と社会統合」
- ・ 報告者 小浜正子 (鳴門教育大学助教授・研究協力者)

- ・ 日 時 平成16年 2月14日(土)

座談会 「東アジアにおける歴史共同研究の現状と課題」

② その他

中国学術雑誌全文データベース（歴史分野、政治分野）のインターネットアクセス権購入を機会に、東洋文庫収集の逐次刊行物のデータベース化について検討した。

(2) 「現代イスラームの超域的研究

——議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究——
(超域アジア研究部門、現代イスラーム研究班、総括・佐藤次高)

本プロジェクトでは、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書を分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義と立憲体制の実態を比較・検討することを通じて、中東・イスラーム地域における諸国民国家の歴史的役割と今日的意義を総合的に考察する。

【研究実施概要】

「現代イスラームの超域的研究」の一環として、「議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究」が開始された。1年度目は、これまでほとんど利用されることのなかったアラビア語、ペルシア語、トルコ語の議会文書資料を分析するための基礎作業が行われた。アラブ班は、専門家をエジプトから招聘して両大戦期の議会議事録の性格を検討し、イラン班は国民議会議事録をデータベース化するとともに、その議題の索引づくりを進めた。またトルコ班もオスマン帝国議会議事録のデータベース化を進めるとともに、立憲思想のトルコへの導入と浸透についての研究を推進した。議会主義と立憲体制に関する研究が、現代中東諸国の「民主主義政治」のありかたを考えるうえでも、きわめて重要な課題であることがすでに明らかに becoming clear.

① 国際ワークショップ

日時 平成16年3月25日(土)、26日(日)、日本中東学会主催、東洋文庫協賛

テーマ 「イスラームの変容する知と権威」

セッション 1) Sufism and Tariqa Movements in the Era of Islamic Resurgence.

2) Site and Networks of Religious Authorities.

3) New Thinkers in Islam.

② 講演会

- ・日 時 平成16年 2月13日(金)
講演者 アッザ・ワフビー (エジプト・アラブ共和国議会担当省副大臣)
テーマ 「近代エジプト議会制度史—1940年代および50年代初頭を中心にして」

③ 研究会

- ・日 時 平成16年 3月 7日(日)、8日(月) 現代イスラーム研究班合同
研究会
報 告 (1)八尾師誠「平成15年度イラン班の活動実績について」
(2)長沢栄治「平成15年度アラブ班の活動実績について」
(3)粕谷元「平成15年度トルコ班の活動実績について」
(4)佐々木揚 (佐賀大学教授・研究協力者)
「中国における議会制度・立憲主義の受容をめぐる問題点」

a) アラブ (主査・長沢栄治)

- ・日 時 平成15年12月13日(土)
報 告 (1)長沢栄治「エジプト近現代史研究資料と
データベース形成の試み」
(2)池田美佐子「カイロ図書館の史料所蔵状況—現地調査報告」

b) イラン (主査・八尾師誠)

- ・日 時 平成15年12月 6日(土)
報 告 (1)森島聡「ロガトナーメイェ・デホダー国費出版とイランの言
語政策について」
(2)坂梨祥「イラン的政治文化論の今日的展開—『イランの政治
発展』の模索」
(3)橋詰若菜「20世紀初頭イランにおける立憲制受容に関する
—考察—イスラーム法学との関係を中心に」
(以上、各研究協力者)
総括；八尾師誠、黒田卓 (各研究員)

c) トルコ (主査・粕谷元)

- ・日 時 平成16年 1月31日(土)

報告者 佐々木紳（東京大学院生・研究協力者）
テーマ 「新オスマン人とイスラーム—立憲主義の正当化の論理」

④ その他

イラン議会文書に引き続き、アラブ議会文書のデータベース化を進めた。また、海外出張により、エジプト議会議事録および官報の所蔵調査（池田美佐子）、トルコ議会関係資料の調査および収集（粕谷元）、イランにおける議会主義の展開と立憲体制関係資料調査および収集（八尾師誠）、中国におけるイスラーム研究の現状調査（佐藤次高、小羽田誠治）を行った。

B. アジア諸地域研究

（3）前近代中国プロジェクト研究

① 「前近代中国の法と社会」（東アジア研究部門、前近代中国研究班）

中国には、条文化された律、詔令、条例等の各種の法が残されており、それらに基づいた中国法制史研究の豊富な業績は、各時代の法の大要を明らかにしてきた。しかし、社会の本質をより鮮明に示す戸婚・田土・錢穀などを扱う、いわば「民事」に関する法の研究は不十分である。従来、多くの個別研究があるが、時代を通じて分析する事が欠けていた面もある。本プロジェクトでは共同研究を行い、「民事」に関わる各時代の法の特質、変遷、地方性を明らかにする。

【研究実施概要】

- a) 前近代中国の「民事」的な法・規範に関する研究成果作成準備のための研究会を開催した。
- b) 「民事」的な法・規範に関する文献目録作成に着手した。
- c) 国内外の宋～清代の条例等の調査・収集と条例集の「内容索引」作成を検討した。

○基礎研究

アジア諸地域の歴史・文化の特徴を解明するために、以下のような基礎研究を実施した。

〈東アジア研究部門〉

(3) 前近代中国研究班

② 「宋史食貨志研究」

宋代の経済につき王朝の官僚機構が記した克明な「資料」にもとづいて、経済政策・財政運営の全体像を解明する。「資料」の中心をなすものは『宋史食貨志』であり、その総合的研究の成果として訳註書を完成し、また、その資料源である『宋会要輯稿』語彙索引編の作成事業の完結を期す。

【研究実施概要】

- a) 本年度は隔週の研究会のもとに、『宋史食貨志訳註(五)』(塩・茶法の専売制)を刊行した。さらに、『宋史食貨志訳註(六)』収載の酒・香・商税・市易など講読研究会を重ねた。
- b) 昨年度につづき『宋会要輯稿』食貨の部の語彙「地名編」カード30,400枚、「一般語彙編」カード約78,000枚の入力を終了した。

③ 「中国古代地域史研究－『水経注』の分析から－」

『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注を考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図(旧ソ連製・'78年、1/100,000)・アメリカの航空地図('95年、1/500,000)と合わせて分析することによって、中国古代の地域社会の構造を再検討する。

【研究実施概要】

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』(江蘇古籍出版社刊)をテキストとして、隔週の研究会において、その巻17「渭水」(甘肅省に発し、陝西省咸陽の南、西安(長安)の北を経て黄河に注ぐ)の部分、旧ソ連製の詳細なランドサット衛星地図などと重ね合わせ、諸注及び諸校訂を丁寧に検討しながら読み進めた。
- b) 20世紀以降の中国における渭水流域の諸遺跡の考古学的調査・発掘の報告書を集め、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせ検討し、渭水流域の古代の自然・社会的実態により具体的に迫るよう努めた。この成果を「渭水流域古代地図」などの形でまとめることを検討した。

④ 「東アジア都城の考古学的研究」

中国東北地方の東北隅に、713年大唐帝国の册封を受けて渤海郡(王)となって以降、渤海(698-926年)は連年のように朝貢し、また留学生を次々と派

遺し、唐の文化の摂取に努めた。しかしながら、渤海は自国の歴史を遺していないため、渤海の政治、経済、社会、歴史、文化などは詳細が不明なままになっている。このような事情の時、戦前に東亜考古学会が渤海国の首都の遺跡で上京龍泉址＝東京城の発掘調査した遺跡・遺物を整理して渤海文化の実態を研究することを中心とし、あわせて朝鮮三国、日本などとの関連を視野に、東アジアにおける渤海都城の歴史的 position を検討する。

【研究実施概要】

- a) 「渤海都城の考古学的研究」班と協同して、現在、中国で渤海都城の宮殿区の発掘調査と整備事業が急速にすすめられているので、上京龍泉府址＝東京城の現地調査および韓国ソウル大学校博物館の渤海関係資料の調査を実施した。
- b) 韓神大学校博物館学芸研究士の李亨源氏を招聘して「百濟扶餘時代の都城〈涇城〉の調査」のテーマによる研究発表会をもったが、中国の南朝の都城との関連が予測された。
- c) 東京城出土遺物の整理作業は、2003年末までに平箱100箱分を洗浄、注記、写真撮影、台帳登録（瓦類614点、建築装飾材1,038点）などを実施した。

(4) 近代中国研究班

① 「1910年代における日本の中国認識」

近代日本の政府及び民間機関が作成した中国実態調査資料の検討を通して、日本の同時代中国認識がいかなるものであったかを明らかにすることを基本に、本研究では、比較的研究の手薄な1910年代から20年代初めの時期の山東地方を取り上げる。

【研究実施概要】

- a) 構成メンバー各々がテーマを設定して、個々の研究を進め、3回の研究会において活発な意見を交換した。
- b) 初年度の本年は、関係資料の調査・収集につとめた。東洋文庫のほか、外交史料館、防衛庁防衛研究所図書館、山口大学東亜経済研究所の調査において、青島守備軍民政部鉄道部発行の『調査資料』シリーズのほか、『山東鉄道調査報告』、『青島実業協会月報』など多くの貴重資料の調査と成果を得た。

(5) 東北アジア研究班

① 「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題の作成」

日本の諸機関に所蔵されている、大帳(台帳)を中心とした朝鮮戸籍関係資料を調査検討する。このことより日本における朝鮮前近代史料の所蔵状況を把握し基礎データを集積するとともに、家族・血縁・人口・身分・婚姻・集落などについて分析を行い、近世から近代初頭にかけての朝鮮の社会状況に関する歴史学的考察を加える。

【研究実施概要】

- a) 戸籍大帳ならびに戸籍関係資料は、韓国にも残存数が少なく、日本各機関の所蔵分は史料上研究上に重要な位置を占めている。今回、一連の資料調査の対象は、京都大学附属図書館・総合博物館、東北大学・学習院大学等の図書館など4地域9機関11施設・大帳331冊を数える。
- b) その研究の成果として、330点の写真にその解題を付して『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』を出版した。

② 「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」

近年、中国清朝満洲語檔案資料の重要性が注目されてきているが、清朝の基盤組織である八旗のひとつ鑲紅旗満洲の衙門(事務所)の文書群である、東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔満洲都統衙門檔案」の研究を継続する。同檔案には、衙門が設けられた雍正元年(1723)から民国十一年(1922)にいたる、約2,240件の文書が残されている。その文書群の「概要」については、すでに Toyo Bunko Research Library No.1 (2001年刊)に紹介したが、檔案のもつ歴史的意味、個別檔案の内容等について「研究編」を編み英文での刊行を期す。

【研究実施概要】

- a) 東洋文庫所蔵鑲紅旗檔満洲語檔案の「研究編」刊行の作業をすすめた。
- b) 「清入関前内国史院檔満文檔案」(北京の中国第一歴史檔案館所蔵)の『内国史院檔、天聰七年』(ローマ字転写・和訳・原文写真収載)の出版につづき、「天聰五年(1631)檔」および「天聰八年(1634)檔」の講読研究会を継続した。

(6) 日本研究班

① 「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な

典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にされていない。本研究はこれを組織的、総合的に行い、研究の基盤を整備するとともに、これを広く社会に公表し、研究の進展に資することを期す。

【研究実施概要】

- a) 特に本年度は、すでに一応の調査が終了しその成果が公刊されている古写本、古刊本につき遺漏が見出されたので、これを調査研究し、『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅳ』として出版した。ここで、その一端を紹介するならば、『具舎論』等11種がいわゆる神護寺経であったこと、悉曇関係の書物の多くが高山寺伝来の由緒正しい資料であったこと、『古文孝経』の写本に角筆が、それも線描画を描いたものが見出されたこと等、貴重な発見をすることができた。
- b) 岩崎文庫本の中、質・量ともにすぐれている江戸期の近世写本・刊本の書誌的研究を継続した。

〈内陸アジア研究部門〉

(7) 中央アジア研究班

① 「St. ペテルブルグ文書研究」

東洋文庫所蔵のマイクロフィルム（ロシア科学アカデミー St. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵文書）のうち、5－6世紀から15世紀頃に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル語・ソグド語・コータン語・マニ文字文献（約14,000駒）およびモンゴル語文献（約12,000駒）を整理分類し、まず、その総合解題カタログを作成する。それと並行して文献学的・歴史的・言語学的研究をすすめ、オアシス社会と遊牧社会との関連を含めて、中央アジア諸民族の残した文書により、その当時の歴史文化的背景を明らかにする。

【研究実施概要】

- a) 各言語の分担者による共同文書研究資料として使用するため、断片の文書を含めて、その複製を作成し分類整理をすすめた。
 - b) 整理・分析の過程で、St. ペテルブルグ所蔵文書の再確認作業のため現地調査および海外の他機関所蔵のウイグル等文書の調査を実施した。
- ② 「近現代中央アジアにおける民族の創成研究」
- 1991年ソ連解体と中央アジア5ヶ国の独立以来、現今のアフガニスタン情勢まで連動して、中央アジア諸国ではあらたな「民族意識」がさまざまな形で

姿を表し、周辺地域（たとえば新疆ウイグル自治区）にも影響している。この現状を近年における東洋文庫の収集資料を活用して主に歴史学の方法によって検証し、「国民国家」の枠組みを問いなおしつつ、「民族」創成の多様な論理と過程を明らかにする。この地域に「民族意識」の原形が生まれたのは、19世紀末のことであり、これを創出したムスリム知識人たちはおもに新聞・雑誌などの新しいメディアを活用しながら民族的なアイデンティティの形成にあたった。したがって、19世紀末から20世紀初頭に刊行された新聞・雑誌は、重要な史料であり、これをもとに実証的な研究を進める。

【研究実施概要】

- a) 近代中央アジア新聞・雑誌コレクションの整理：初年度は、今後の研究の基礎となるこれらのマイクロフィルム資料について各号の確認と整理を行い、資料の利用と保存のためにCD-ROM化を行った。対象とした新聞・雑誌は下記の通りである。

Terjuman (Bahchesaray, 1906-1917), *Turkistan Viloyatining Gazeti* (Tashkent, 1870-1917), *Shura* (Orenburg, 1908-1917), *Vaqt* (Orenburg, 1908-1915), *Āyaina* (Samarkand, 1913-1915), *Qizil bayraq* (Tashkent, 1921), *Turkistan* (Tashkent, 1923-1924), *Rahbar-i Dānish* (Samarkand, 1928-1930).

- b) 現地資料・関連研究図書の収集：ウズベキスタン、タタールスタンなどで刊行されている最新の研究文献を調査し、さらに、1980年代後半のペレストロイカ期から、中央アジア近現代史に関する研究動向の調査を行った。

③ 「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」

これまで、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を現地で作成された生の漢文文書を分析研究することによって、諸民族の歴史の実態を明らかにすることにある。このために、本研究は、3世紀から13世紀に至る時代に作成された漢文文書を記述内容によって分類し、それぞれの文書がどのような特徴をもっているかを、書誌学的、あるいは古文書学的に研究することによって、諸種文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明する。

【研究実施概要】

- a) ロシアのサンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵のマイクロフィルム資料に含まれる非仏教文献の調査・分類を行った。
- b) 上記に関連して、京都大学羽田記念館所蔵「西域出土文献写真」を調

査した。

- c) 「内陸アジア出土古文獻研究会」を開催継続して、標記課題のもと各分担者・研究協力者による個別研究報告を行った。

(8) チベット研究班

① 「チベット蔵外文献の書誌的研究」

これまで永年にわたってチベット人研究協力者の協力のもとに「チベット語文語辞典の編纂」および「チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究」の研究業績の蓄積の上に立って、さらに一層の研究の充実を図るべく、「チベット蔵外文献の調査研究」を実施する。

【研究実施概要】

- a) 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録の編纂カードを点検して、目録データベースの作成を継続した。
- b) 東洋文庫所蔵チベット蔵外文献中の河口慧海師将来文献(蔵外No. 406; No. 416)および注釈のウメ文字体写本の校訂と語彙収集およびデータベース化を開始した。
- c) チベットの伝統的仏教学の基礎研究書として、従来より研究を進めてきたトゥカン『宗義書』(既刊6刊)の現存諸版の全体的再点検を行い、テキスト校訂と語彙収集およびデータベース化を進めた。
- d) 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料として、チベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成の作業を継続した。

〈インド・東南アジア研究部門〉

(9) インド研究班

① 「南アジアにおける支配権力の政治と文化」

南アジア史における支配権力は、概略、古代のヒンドウー政権、中世のムスリム政権、近代の植民地政権、現代の民主政権へと展開した。この中、わが国において最も遅れているムスリム政権のムガル時代を中心に、南アジア史関係のペルシア語、ウルドゥー語史料の蒐集につとめ、インド＝ムスリム政権の権力構造とその支配下における社会、経済、文化の実態を解明する。

【研究実施概要】

- a) 研究分担者の個別研究を進める過程で、ムガル帝国時代のムスリム関

係史料、ウルドゥー語史料、ヒンディ文学関係史料の調査をすすめ、蒐集計画を検討して、データ入力に備えた。

- b) インド＝ムスリム研究者を総合した研究会の組織化につとめた。

(10) 東南アジア研究班

① 「東南アジア諸国の伝統と近代化をめぐる諸問題」

東南アジアの港市には、東西世界の商人が逗留するとともに、中国やインド、西アジアからの移住者も流入した。そこで、東南アジアの前近代から近代にかけてこうした移住者達が、出身地といかなるネットワークを形成し、また近代東南アジア社会の構築にいかに関わったかを、港市を拠点に考察する。

【研究実施概要】

- a) 東南アジア関係マイクロフィルム資料の分類整理とデータ入力とを進めた。
- b) 東南アジアの王統記の他者表象をめぐる記述の一覧表作成につとめた。

〈西アジア研究部門〉

(11) 西アジア研究班

① 「イスラーム世界における契約文書の研究」

個人間の契約（売買契約など）にとどまらず、広く君臣契約や行政契約（徴税請負など）を含め、現存する文書や史料をもとに、イスラーム世界における契約を保証するシステムと契約によって結ばれる社会関係の全体像を検討する。

【研究実施概要】

- a) 平成17年度出版予定の“Muqata Defteri (Tax-farm Register) of Damascus Province in the Seventeenth Century”（「17世紀シリアのムカーター台帳の校訂と研究」）の校訂作業と文書史料収載許可を得るため、ダマスカス歴史文書館等に出張するなど、編集・出版作業を進めた。
- b) 他機関の協同プロジェクト「イスラーム写本・文書の総合的研究」などと共同研究会を催し、イスラーム法廷文書にかかわる研究者のネットワークを構築した。

C. 平成15年度 研究部 5 部門11研究班 研究組織

(◎印は専従者、Wは重複を示す)

超域アジア研究部門

研究顧問 石井米雄 (神田外語大学学長)

○現代中国研究班「現代中国の総合的研究」

総括 斯波義信◎ (東洋文庫理事長)
政治 (主査) 毛里和子 (早稲田大学教授)
興梠一郎 (神田外語大学助教授)
唐 亮 (横浜市立大学助教授)
青山瑠妙 (早稲田大学助教授)
経 済 (主査) 中兼和津次 (青山学院大学教授)
矢吹 晋 (横浜市立大学教授)
国際関係・文化 (主査)
平野健一郎 (早稲田大学教授)
衛藤藩吉 (東京大学名誉教授)
田中明彦 (東京大学教授)
濱下武志 (京大大学教授)

○現代イスラーム研究班「現代イスラームの超域的研究

—議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究—

総括 佐藤次高◎ (東洋文庫研究部長)
アラブ (主査) 長沢栄治 (東京大学東洋文化研究所助教授)
小杉 泰 (京都大学教授) 池田美佐子 (光陵女子短大教授)
小松久男 (東京大学教授)
関本照夫 (東京大学東洋文化研究所教授)
イラン (主査) 八尾師 誠 (東京外国語大学教授)
黒田 卓 (東北大学助教授) 吉村慎太郎 (広島大学教授)
松永泰行 (日本大学講師)
トルコ (主査) 粕谷 元 (日本大学講師)
設楽国広 (立教大学教授) 新井政美 (東京外国語大学教授)
永田雄三 (明治大学教授)

超域 2 班事務総括 瀧下彩子◎ (東洋文庫専任研究員)

歴史・文化研究（アジア諸地域研究）

○東アジア研究部門

前近代中国研究班

「前近代中国の法と社会」

- 総括（元代） 鈴木立子（愛知大学教授）
南宋 柳田節子（学習院大学元教授） 大澤正昭（上智大学教授）
明代 鶴見尚弘（山梨県立女子短期大学学長）
明清 岸本美緒（東京大学教授） 寺田浩明（京都大学教授）
山本英史（慶應義塾大学教授）

「宋史食貨志研究」

- 総括 斯波義信^W（前出）
中嶋敏（東京教育大学名誉教授）
柳田節子^W（前出） 渡辺紘良（獨協医科大学名誉教授）
千葉 暎（桐朋学園大学名誉理事長）
吉田 寅（立正大学元教授） 妹尾達彦（中央大学教授）
窪添慶文（お茶の水女子大学教授）

「中国古代地域史研究－水経注の分析から－」

- 総括 宇都木 章（青山学院大学名誉教授）
堀 敏一（明治大学名誉教授）
松丸道雄（東京大学名誉教授）
太田幸男（東京学芸大学名誉教授）
飯尾秀幸（専修大学教授） 塩沢裕仁（法政大学講師）

「東アジア都城の考古学的研究」

- 総括 田村晃一（青山学院大学名誉教授）
飯島武次（駒沢大学教授）
妹尾達彦^W（前出） 清水信行（青山学院大学教授）
井上和人（国立奈良文化財研究所第一調査研究室長）
早乙女雅博（東京大学助教）

近代中国研究班

「1910年代における日本の中国認識」

総括	本庄比佐子 (東洋文庫研究員)	
経済	久保亨 (信州大学教授)	
	奥村哲 (東京都立大学教授)	
	金丸裕一 (立命館アジア太平洋大学助教授)	
	弁納才一 (金沢大学助教授)	富澤芳亜 (島根大学助教授)
政治	内山雅生 (宇都宮大学教授)	
	曾田三郎 (広島大学教授)	松重充浩 (日本大学助教授)
文化・社会	三谷孝 (一橋大学教授)	
	瀧下彩子 ^w (前出)	

東北アジア研究班

「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題の作成」

総括	武田幸男 (岐阜聖徳学園大学教授)	
	吉田光男 (東京大学教授)	糟谷憲一 (一橋大学教授)
	山内弘一 (上智大学教授)	六反田豊 (東京大学助教授)
	井上和枝 (鹿児島国際大学助教授)	

「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」

総括	松村潤 (日本大学名誉教授)	
	石橋崇雄 (国士舘大学教授)	加藤直人 (日本大学教授)
	C. A. ダニエルス (東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所教授)	
	中見立夫 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研教授)	
	細谷良夫 (東北学院大学教授)	

日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」

総括	佐竹昭広 (京都大学名誉教授)	
語学	酒井憲二 (調布学園短期大学名誉教授)	
	柳田征司 (奈良大学教授)	石塚晴通 (北海道大学教授)
文学	枅尾武 (成城大学教授)	上野英二 (成城大学教授)

	大谷俊太	(奈良女子大学助教授)	
	深澤眞二	(和光大学助教授)	辻本裕成 (南山大学助教授)
思想・文化	宮崎修多	(成城大学助教授)	
	和田恭幸	(国文学研究資料館助手)	
	中野真麻理	(国文学研究資料館助手)	
文学	今西祐一郎	(九州大学教授)	

○内陸アジア研究部門

中央アジア研究班

「St. ペテルブルグ文書研究」

総括	梅村 坦	(中央大学教授)	
社会・文化	林 俊雄	(創価大学教授)	片山章雄 (東海大学助教授)
モンゴル	杉山正明	(京都大学教授)	
コータン	熊本 裕	(東京大学教授)	
ウイグル	庄垣内正弘	(京都大学教授)	
ソグド	吉田 豊	(神戸市外国語大学教授)	

「近現代中央アジアにおける民族の創成」

総括	小松久男 ^W	(前出)	
	新免 康	(中央大学助教授)	梅村 坦 ^W (前出)
	片山章雄 ^W	(前出)	濱田正美 (神戸大学教授)

「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」

総括	土肥義和	(國學院大学教授)	
碑銘讚文	池田 温	(創価大学特任教授)	
官・私文書	荒川正晴	(大阪大学助教授)	關尾史郎 (新潟大学教授)

チベット研究班

「チベット蔵外文献の調査研究」

総括	川崎信定	(東洋大学教授)	
歴史	山口瑞鳳	(東京大学名誉教授)	
宗教文献	松濤誠達	(大正大学学長)	
密教図像	立川武蔵	(国立民族学博物館教授)	

仏教稀覯本	御牧克己	(京都大学教授)
民間文学	星實千代	(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所研究員)
仏教高僧全集	福田洋一	(大谷大学助教授)

○インド・東南アジア研究部門

インド研究班

「南アジアにおける支配権力の政治と文化」

総括	小名康之	(青山学院大学教授)
ドラヴィダ	辛島昇	(大正大学教授)
サンスクリット	山崎元一	(國學院大学教授)
ウルドゥー	萩田博	(東京外国語大学講師)
サンスクリット	水野善文	(東京外国語大学助教授)

東南アジア研究班

「東南アジア諸国の伝統と近代化をめぐる諸問題」

総括	石井米雄 ^W	(前出)	
	桜井由躬雄	(東京大学教授)	弘末雅士(立教大学教授)
	嶋尾稔	(慶應義塾大学助教授)	

○西アジア研究部門

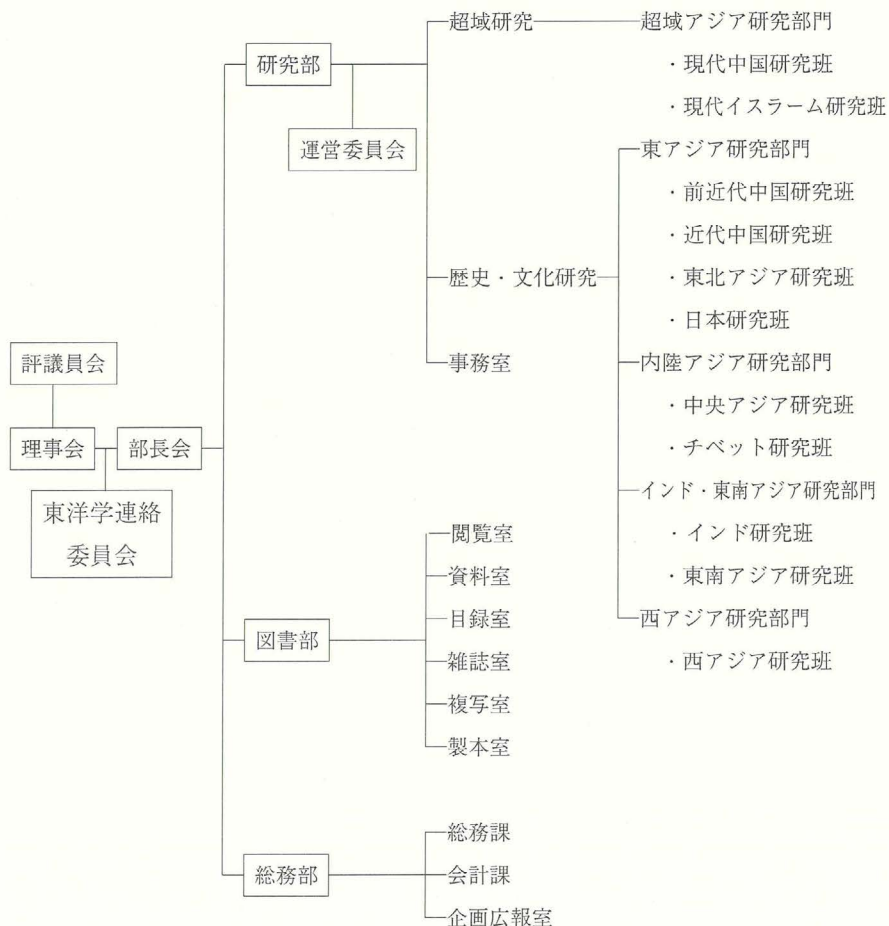
西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究」

総括	三浦徹	(お茶の水女子大学教授)	
契約観念	後藤明	(東洋大学教授)	
トルコ	永田雄三 ^W	(前出)	林佳世子(東京外国語大学助教授)
トルコ・ペルシ	清水宏祐	(九州大学教授)	

なお、「歴史・文化研究(アジア諸地域研究)」事務総括担当の松本明、その他兼任研究員29名については、平成15年度現在、以上の組織に分属していないため、ここに記載しないこととした。

組 織 図



D. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

(1) 研究成果公開促進費（データベース等）

【名称】「東洋学総合情報システム」(A Comprehensive Information System
for the Asian Studies)

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]（平成6年度以降採択、
15年度採用）

【分野】「東洋学全般」

【目的・内容】；

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の図書館・研究所である東洋文庫における所蔵文献の各種目録情報をデータベース化し、インターネットなどを通じて利用者が自由に検索できるようにすることを目的としている。データベース構築に当たっては、できる限りアジア諸言語のオリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートを行うことにより、研究者に利用しやすいような環境をつくることに努めている。資料は毎年、購入のほか寄贈本の受け入れなどにより、急速に増加しつつあるが、現在総数約350,000件のうち昨年度（平成14年度）までに211,000件、約60%の遡及入力を完了した。本年度は昨年度に引き続き、漢籍約10,000件、和書20,000件、計30,000件の入力を進める。

OPAC 公開については、現在、各種データ・ベース20種（約175,000件）をホーム・ページ上に公開している。昨年度（平成14年度）には、近代中国文献、Korea 関係洋書、複文庫洋書などを中心にデータ・ベース7種（約34,600件）を公開した。本年度は、中国語雑誌、和書貴重書、東南アジア関係洋書などを中心に、一層の OPAC 公開を推進する。また、特殊語文献については、モンゴル語を中心に公開に向けて努力する。

【事業実施概要】；

今年度の書誌情報は、従来のデータのアップのほかに、特に中国逐次刊行物、近代中国関係の欧文・中文図書、東南アジア関係欧文図書、韓国・朝鮮語資料のデータベース（レコード数38,143件）を完成させ、順次公開した。

【作成分担者】 田仲一成（図書部長）

(2) 基盤研究（B）

【課題】「宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」

[研究代表者：斯波義信]（平成14年度採択、3ヶ年間・2年度目）

【目 的】；

本研究は、経済政策及びその立案の背後にある諸々の経済制度、官僚支配等に関する用語の調査・研究を通して、宋代経済政策の全体像を明らかにすることを目的にする。

具体的には、一つは従来の『宋史食貨志』訳註作業を継続させ、残る部分即ち専売・商業税・金融政策・貿易管理等の訳註を完成させること、一つはやはり従来推進してきた『宋会要輯稿』食貨の語彙調査を、地名及び一般語彙に及ぼすこと、一つは『朝野類要』訳註作業を推進させること、以上の3つである。3つの作業は語彙調査上、相互に関連しており、同時に推し進めなければならない。本年度は、関連する語彙の調査に重点を置き、一部の訳註稿についてはその完成出版を目指すこととしたい。

【研究実施概要】；

- (1) 『宋史食貨志訳註（巻五）塩・茶』（A 5判768頁）を刊行した。
- (2) 『宋史食貨志 下七～八（酒、阮治、礬、香、商税、市易、均輸、互市舶法）』の訳註稿の検討会を東洋文庫、電通生協会館、無窮会図書館などにおいて開催した。
- (3) 『宋会要輯稿食貨語彙索引（地名篇）』（約250頁、B 5判、縦2段）の校正をほぼ完成させ、出版の準備を終えた。
- (4) 『宋会要輯稿食貨語彙索引（一般語彙篇）』の原稿をほぼ完成させた。
- (5) 『朝野類要』の明代版本の調査を上海図書館、南京図書館にて行った。
- (6) 『朝野類要』の書誌学的研究を行った。
- (7) 『朝野類要訳註稿』の検討会を東洋文庫、学習院大学東洋文化研究所、早稲田大学、青山学院大学などにおいて開催した。

【研究分担者】 渡辺紘良・石川重雄（以上、宋史食貨志研究班）、長谷川誠夫・相田 洋・王 瑞来（以上、宋会要輔稿研究班）、青木 敦・近藤一成・安野省三（以上、朝野類要研究班）

(3) 基盤研究 (B)

【課 題】 「第一次大戦期日本の山東経営をめぐる総合的研究」

〔研究代表者：本庄比佐子〕（平成15年度採択、4ヶ年間・初年度）

【目 的】；

第一次世界大戦期に日本はドイツの青島要塞を攻略し、山東半島を拠点として中国大陸に対する利権拡張政策を積極的に展開した。そしてこの時期以降、日本

は青島、山東半島を拠点に、それまで主に東北地域と台湾に限られていた利権を、中国の関内地域に拡大していく。本研究では、この時期、1910年代後半から1920年代初めにかけて、青島守備軍、満鉄、農商務省などの国家機構を動員して進められた山東地域など中国の実態調査の全貌を明らかにするとともに、それらの調査資料を参照しつつ、青島・山東地域を中心に、当時の中国の政治・経済・社会に関する総合的な考察を試みる。

【研究実施概要】；

- (1) 初年度にあたる平成15年度は、関係史資料の調査・収集に力を注いだ。
 - ① 国内では、東洋文庫の所蔵状況を確認したうえで、外務省外交史料館・防衛庁防衛研究所図書館・山口大学東亜経済研究所でメンバーの合同の調査を行った。その結果、『青島守備軍旬報』（1914-20年）、『軍軍令告示集』（1914-20年）を見つけることができた。また、個々の調査結果も併せて、青島守備軍民政部鉄道部がシリーズとして作成した『調査資料』について、31点のうち22点の所在が明らかになり、外交史料館のファイルからは『山東鉄道調査報告』も見出した。これらの調査資料は、青島と山東鉄道及びその沿線地域を勢力範囲として中国大陸進出を図る日本の企図を具体的に分析するうえで重要な資料である。さらに、占領下の青島に進出した日本人の経済活動を反映する『青島実業協会月報』（2-45号）について、研究協力者の協力を得て記事目録を作成した。
 - ② 平成16年度に予定している中国での調査に向けて、青島と済南に研究分担者2名を派遣して予備調査を行った。青島市社会科学院・山東省社会科学院歴史所を訪問して資料について教示を得たほか、今後の研究交流の必要も確認された。また、檔案館などでも資料の所蔵状況を調査した。
- (2) 1910-20年代初めの山東地方史、山東問題をめぐる日中関係などに関する先行研究を参考にしつつ、具体的には、日本軍の占領体制、日本の軍事行動と山東の民衆、青島守備軍鉄道部の調査活動、ドイツの青島経営、山東省の農村社会の構造変動、山東省の穀物事情、葉煙草を中心とする農産物事情、大連における山東移民、山東鉄道の延長線問題、山東鉄道返還後の日本人雇用問題などのテーマを設けて(1)①の資料を中心に検討を始めた。

【研究分担者】 曾田三郎・松重充浩（以上、政治分野）、久保 亨・奥村 哲・金丸裕一・富澤芳亜（以上、経済分野）、内山雅生・三谷 孝・弁納才一・瀧下彩子（以上、社会分野）

(4) 基盤研究(C)

【課題】「渤海都城の考古学的研究」 [研究代表者：田村晃一]
(平成14年度追加採択、2ヶ年間・最終年度)

【目的】；

渤海の都城については、昭和8・9年に東亜考古学会が実施した東京城（上京龍泉府）の調査（調査主任は原田淑人東京帝国大学教授）があり、昭和13年度には半拉城（八連城＝東京龍原府）、西古城（中京顕徳府）が調査された。戦後になると、1961年に中国・朝鮮合同調査隊が東京城を再調査し、その後も東京城については、中国側によって断続的に調査されている。またその他の都城についても、ごく最近、調査をおこなったという。

本研究は、現在、東京大学に所蔵されている東京城出土遺物の整理調査を進めることによって、渤海都城の実態を明らかにすると共に、従来の渤海都城の調査結果を総括し、中国・朝鮮三国や高麗、日本の平城京や平安京などの都城に関する考古学的な調査結果と比較検討し、渤海の都城が東アジアの古代・中世における都城制度のなかでどのような位置を占めているかという点を明らかにすることを目的としている。

【研究実施概要】；

東京城（渤海上京龍泉府）出土遺物の整理は、平成15年末までに平箱60箱分の作業を完了した。その内訳は、丸瓦101、平瓦124、軒丸瓦120、軒平瓦39、道具瓦2（瓦類のうちで押字あるもの82）、鴟尾71、獸頭301、方榻28、長方榻17、根卷89、壁材122、土器49、塑像片などの土製品110、鉄釘など33、その他、総計1,208点となっている。また平成16年1～3月に平箱20箱分の整理を実施した。詳細については後日まとめて報告する。

研究発表については、当初、5月に中国黒龍江省考古文物研究所の朱国忱氏を招聘することとして運動していたが、サーズ流行のため延期となり、改めて12月に招聘しなおすこととした。しかし直前になって、招聘不可能ということになって、計画を練直し、16年2月に韓国韓神大学校博物館学芸研究士李亨源を招き、「百済扶餘時代の都城調査の現況」について発表してもらうこととして実施した。

現地調査については、サーズ騒ぎの納まった平成15年10月12日から19日までの7泊8日の日程で中国黒龍江省寧安市にある東京城の地表調査を実施した。参加者は日本から井上和人、早乙女雅博、小嶋芳孝、田村晃一の4名で、北京から馬一紅氏が参加した。この踏査には黒龍江省文化庁の蓋培新氏も同行した。幸いにして好天に恵まれ、城内の各地を見聞することができたが、何分にも広大な遺跡であるので、未踏査部分も多く残し、次回以後の課題とした。

【研究分担者】 飯島武次・妹尾達彦（以上、渤海都城と隋唐都城の比較）、清水信行（渤海都城の考古調査）、井上和人（日本と渤海の都城比較）、早乙女雅博（朝鮮と渤海の都城比較）

E. その他の民間学術助成金による調査研究

(1) 三菱財団人文科学研究助成金特別事業

【課題】 「中国古代地域史研究 - 『水経注』の分析から」

〔代表研究者：堀 敏一〕（平成14・15・16年度3ヶ年間）

【目的】；

近年、科学的な調査と考古学的な発掘および夥しい出土文物によって、中国古代史研究は更めて、中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、具体的な史料の再構築の必要性がさげばれている。

『水経注』は、中国最古の地理書（原典6世紀）として、中国の河川を中心として、各地域の地勢及び都邑・遺址・遺物に関して、調査を行ったものである。さらに注目すべきは各地の人物や歴史事実の記録、及び伝承に至るまで丁寧な記録を残している。これは古代地域史の資料の宝庫である。

中国では、宋・明以来、それまでに佚われた部分を含めて、この史料の正確な復元と解注が行われ、特に清朝考証学者及び二十世紀以後の歴史学者がその研究に多大な努力を行って来た。我々はその基礎に立って中国古代史研究の立場から『水経注』の理解と評価とを再検証して、現代につながる新たな中国古代の地域史の具体像を明らかにすることを目的とする。

【研究実施概要】；

現在、渭水水系に関する部分、『水経注疏』巻十七渭水上を検証している。渭水水系は周、秦、漢、前秦、北周、隋、唐といった王朝の都城が置かれた地であり、中国古代史の核となる地域である。本研究では、まず『水経注図』（楊守敬篇）を基礎資料として参照しつつ『水経注疏』の輪読を進めている（毎週水曜日開催）が、新しい中国の地図はもちろんのこと、ロシアで作成された詳細なランドサット衛星地図（1978 USSR 1/100000）やアメリカの航空地図（1995 USA 1/500000）を活用することによって、より丁寧に当該地域の地形や地勢を検討することが可能になった。特に、史料の検証過程でどのように注釈を加えていくかが課題とされるが、本研究プロジェクトでは、『水経注疏』の釈文中に考古資料、歴史地理、民族、自然地理、古跡などの項目を設けて注釈を加えながら作業を進

めている。

なお、現在までの作業の中で得られた主な成果を以下に記述する。

- (1) 甘肅省、陝西省、寧夏回族自治区の境域にある六盤山一帯の歴史的な重要性が明らかになった。『水経注』にはこの地域における漢、魏晉南北朝期の戦乱に関する記事を数多く載せているが、それは渭水が溪谷を通過することから、溪谷が交通の障害になり、その迂回ルートとして瓦亭水など六盤山水系が活用されたことが理解された。またそのルートは南に武都を経て四川に繋がっている。特に、後漢初期動向や南北朝期の氏族に関する情報などが明らかになり、現在はほとんど活用されていない六盤山を東西南北に越えるルートが古代における民族の移動、抗争の場であったことが明確にされた。この点は今後中国古代史を再検証する上に不可欠な情報となるであろう。
- (2) 秦初期の遺跡が数多く展開する天水周辺の歴史地理的な状況が明らかになった。特に、秦水上流の温泉の存在と元來放牧を業としていた秦の発祥地との関係という興味深い問題も導き出された。また、放馬灘という秦の放牧地の自然環境も衛星地図から捉えられ、馬王堆漢墓から発見された古地図との地形比較や比定議論の展開も可能になった。
- (3) 縣城や諸亭の立地状況が把握でき、それによって従来不明確であった甘肅省東部の行政区画の変遷が辿れるようになった。また、縣城遺構など今後の考古学調査に期すべき課題も導き出せた。この点は古代行政地理に関する重要な成果といえる。
- (4) 平成16(2004)年2月下旬～3月中旬、研究分担者の塩沢裕仁・太田幸男らを甘肅省・陝西省の渭水上流域の実地調査に派遣し、甘肅・陝西両省の諸考古学団体の協力を得て主に遺跡の調査を実施した。さらに陝西師範大学の専門研究者と陝西省の歴史地理学上の成果を摂取し、宝鷄市周辺の遺跡等を実地踏査した。
- (5) 『水経注』のあまりにも精緻な記載を再確認するとともに、編者酈道元と同時代史料というべき天水麦積山などの仏教遺跡の記載が見られず、『水経注』の編集過程と方針を考えなくてはならないという次の課題が明確になった。

【研究分担者】 宇都木 章・松丸道雄・太田幸男・飯尾秀幸・塩沢裕仁の
各研究員

(2) 生化学工業株式会社寄付金特定事業

【事業名】 アジア関係資料データベース化プロジェクト

[プロジェクト代表：斯波義信]

【期 間】 平成13年度～同17年度（5ヶ年計画）

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広く東南アジアを中心にアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

【事 業】 アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。

2. 学 術 図 書 出 版

A. 定期出版物刊行

『東洋学報』（東洋文庫和文紀要） 第85巻1～4号 A 5判 4冊 628頁

Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko No.61
（東洋文庫欧文紀要） B 5判 1冊 121頁

『近代中国研究彙報』第26号 A 5判 1冊 108頁

『東洋文庫書報』第35号 A 5判 1冊 222頁

『超域アジア研究報告』第1号 B 5判 1冊 77頁

B. 論叢等出版

Selected Works on the Political History of Modern China

（東洋文庫欧文論叢 Toyo Bunko Research Library 4） A 5判 1冊 294頁

『宋史食貨志訳註（五）』

（東洋文庫論叢第63、宋史食貨志研究班） A 5判 1冊 764頁

『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅳ』（日本研究班） B 5判 1冊 99頁

『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（東北アジア研究班 [朝鮮]）
B 5判 1冊 362頁

3. 講演会

A. 研究情報普及

（1）東洋学講座

（春 期） 共通テーマ：中国地方志・族譜の伝統
[東洋文庫創立80周年記念講演会（3）]

第473回 平成15年5月13日（火）

「地方志の編纂と地域社会」 慶應義塾大学教授 山本 英史 氏

第474回 平成15年5月20日（火）

「珠江デルタから考える中国の地域史」 大阪大学教授 片山 剛 氏

第475回 平成15年5月27日（火）

「中国近世譜と宗族の実像」 大阪市立大学教授 井上 徹 氏

（秋 期） 共通テーマ：現地史料から見るイスラーム世界
—アラブ・ペルシア・トルコ—
[東洋文庫創立80周年記念講演会（4）]

第476回 平成15年10月14日（火） 東洋文庫研究部長

「アラブ—都市に生きる人びと—」 早稲田大学教授 佐藤 次高 氏

東洋文庫研究員
お茶の水女子大学教授 三浦 徹 氏

- 第477回 平成15年10月21日(火) 東洋文庫研究員
「ペルシア—征服者と町の顔役—」 東京外国語大学教授 八尾師 誠 氏
- 東洋文庫研究員
京都大学教授 杉山 正明 氏
- 第478回 平成15年10月28日(火) 東洋文庫研究員
「トルコ—イスタンブールの町づくり—」 明治大学教授 永田 雄三 氏
- 東洋文庫研究員
東京外国語大学助教授 林 佳世子 氏

(2) 特別講演会

- 第1回 平成15年7月28日(月)
“Rural Society and Chinese Emigration” (農村社会と中国人の移住)
Prof., Harvard University Philip A. Kuhn 氏
- 第2回 平成15年9月26日(金)
「中国大陸の遼宋金史研究の概況」
中国社会科学院歴史研究所研究員 王 曾 瑜 氏
- 第3回 平成15年11月20日(木)
「周原遺跡の発掘状況」 北京大学考古文博院副教授 徐 天 進 氏
- 第4回 平成15年11月20日(木)
「二里头文化と夏王朝」 中国社会科学院考古研究所研究員 許 宏 氏
- 第5回 平成15年12月2日(火)
「ウズベキスタン共和国中央古文書館に所蔵される新出の
東洋諸語古文書史料について」
ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所研究員
ヌールヤグディ・トシヨフ 氏
- 第6回 平成15年12月2日(火)
「ウズベキスタン共和国ヒヴァ市イチャン・カラ博物館の
古文書フォンドについて」
ウズベキスタン共和国イチャン・カラ都市博物館上級研究員
カミルジャーン・ホダイベルガノフ 氏

第7回 平成16年2月13日(金)

「近代エジプト議会制度史 -1940年代および50年代初頭を中心にして-」

エジプト・アラブ共和国議会担当省副大臣 アッサ・ワフビー 氏

第8回 平成16年3月4日(木)

「紅夷大砲と大清帝国の創建」

(台湾) 国立清華大学人文社会学院院长 黄 一 農 氏

第9回 平成16年3月5日(金)

「百済・扶餘時代の都城の調査」

(韓国) 韓神大学校博物館学芸研究士 李 亨 源 氏

第10回 平成16年3月11日(木)

「歌舞伎とオペラのヒロインの悲運 -籠釣瓶と椿姫-」

ドイツ連邦ゲッチンゲン大学教授 クラウス M. フィシャー 氏

第11回 平成16年3月24日(水)

「Arabic Autobiographical Tradition」

Prof., University of California, Santa Barbara Dwight F. Reynolds 氏

第12回 平成16年3月26日(金)

「宋代基層社会転变的観察」

台湾中央研究院歴史語言研究所教授 黄 寬 重 氏

(3) 東洋文庫創立80周年記念特別講演会

日 時： 平成15年12月8日(月)

講 師： 浅野秀剛・千葉市美術館学芸課長

テーマ： 「東洋文庫にしかない絵本と浮世絵20選」

(4) 江戸開府400年記念展示会「東洋文庫名品展」の開催

会 期： 平成15年12月23日～平成16年1月12日

場 所： 丸の内ビルディング 7F 丸ビルホール

展示品： 喜多川歌麿「錦織歌麿形新模様」など80点

(5) 研究会(東洋文庫談話会)

日 時： 平成16年2月27日(金)

「徽州文書からみた「典」「當」「借」」

文部科学省内地研究員・東京外国語大学教授 白井 佐知子 氏

B. データベース公開

平成15年4月1日～平成16年3月31日までの期間に、東洋文庫の図書・資料のデータに対するオンライン検索アクセス件数は、概略、以下の通りです。

区分/03年4月～04年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
漢籍資料	504	506	619	633	656	728	809	624	1,344	727	593	760
中文・日文・欧文・露文新収図書	192	181	159	198	210	356	252	132	348	238	234	254
中文図書(近中)	260	255	273	275	270	329	236	253	388	250	363	299
日文図書(近中)	260	265	272	254	276	309	312	326	590	264	292	672
近代日本関係文献目録	275	236	178	206	239	437	377	184	398	161	230	215
アラビア語図書	381	360	320	369	337	366	751	427	648	352	402	432
ペルシア語図書	381	360	320	369	337	410	751	418	644	351	402	432
チベット語文献(河口・蔵外)	39	52	83	85	100	311	239	237	218	143	187	230
中央アジア研究文献目録	0	386	341	429	356	346	443	318	580	355	199	367
中東イスラム研究文献目録	0	412	374	510	397	407	855	579	918	348	353	334
そのほか	1,626	1,678	1,844	2,067	1,009	2,550	3,437	1,954	4,174	2,485	3,316	3,501
合 計	3,918	4,691	4,783	5,395	5,483	6,549	8,462	5,452	10,250	5,674	6,571	7,496

4. 学 術 情 報 提 供

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

A. 研究者の交流および便宜供与のサービス

(1) 長期受入

1) 国内研究者の受入

白井 佐知子(東京外国語大学外国語学部教授)

「徽州文書および徽州商人の研究」

(平成15年5月1日～同16年2月27日・10ヶ月間)

2) 平成15年度日本学術振興会特別研究員 P.D. の受入

佐藤 健太郎 (東京大学大学院 P.D.)

「11～13世紀アンダルス (イスラーム・スペイン) における暦と祭」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

安藤 潤一郎 (東京大学大学院 P.D.)

「近代中国におけるイスラム系少数民族の研究—主として国際関係の

視座から」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

内田 直文 (九州大学大学院 P.D.)

「清代中国の文書行政及び皇帝側近集団から見た清朝国家の支配構造の

分析」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

高村 武幸 (明治大学大学院 P.D.)

「秦漢帝国支配下の地域社会 —紀元前3世紀末～紀元3世紀初頭の社会

生活史の視点から」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

前田 弘毅 (東京大学大学院 P.D.)

「イスラーム世界における奴隷エリートの研究 —マイノリティー・ネッ

トワークの視座から」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

3) 外国人研究者の受入

Claus M. FISCHER (ドイツ連邦ゲッチンゲン大学教授)

「東洋文庫 (岩崎家コレクション) 所蔵日本近世演劇史資料の調査研究」

(平成15年4月以降59日間・日本学術振興会招聘)

(2) 外国人研究者への便宜供与

Bhutan

Mynak R. Tulku Director, National Library, Thimphu

China (People's Republic)

王 宝 平 浙江大学日本文化研究所教授

方 素 梅 中国社会科学院民族研究所研究員、助教授

- | | | | |
|---|------|-------|--|
| 李 | 曉 | 杰 | 復旦大學中國歷史地理研究所研究員 |
| 郭 | 英 | 德 | 北京師範大學大學院教授 |
| 傅 | | 剛 | 北京大學中文系教授 |
| 鄧 | | 琳 | ワシントン大學大學院生 |
| 王 | 曾 | 瑜 | 中國社會科學院歷史研究所研究員 |
| 孔 | 祥 | 吉 | ハーバード大學客員教授 |
| 閔 | 嘉 | 祿 | 遼寧社會科學院院務諮詢委員會主任 |
| 許 | | 宏 | 中國社會科學院考古研究所副教授
(Associate Professor, Institute of Archaeology, Chinese Academy of Social Sciences) |
| 徐 | 天 | 進 | 北京大學考古文博院副教授
(Associate Professor, School of Archaeology and Museology, Peking University) |
| 吳 | 宏 | 一 | 香港城市大學教授 |
| 白 | 拉都格其 | (汪炳明) | 內蒙古大學蒙古學學院教授 |
| 朱 | 延 | 平 | 中國社會科學院考古研究所研究員 |
| 孫 | 振 | 玉 | 寧夏大學民族學研究所教授 |
| 朱 | 士 | 光 | 陝西師範大學教授 |
| 黃 | 建 | 明 | 中央民族大學少數民族文化研究中心副主任・副教授 |
| 莫 | 垂 | 軍 | 香港中文大學歷史系碩士研究生 |
| 鄭 | 利 | 華 | 復旦大學中國古代文化文學研究中心中國古代文學研究室主任・教授 |
| 孫 | 大 | 力 | 中國共產黨史人物研究会研究員 |
| 孫 | 英 | | 中國共產黨史人物研究会會長 |
| 劉 | 榮 | 剛 | 《中共黨史資料》編集部副主編 |
| 穆 | 兆 | 勇 | 中國共產黨史人物研究会會長秘書 |
| 龔 | 興 | 盛 | 中國共產黨史人物研究会研究員 |
| 包 | 樂 | 史 | 荷蘭國立萊登大學歷史系歐亞關係史教授 |
| 王 | 廣 | 武 | 新加坡國立大學東亞研究所所長 |
| 龍 | 登 | 高 | 清華大學人文學院經濟學研究所副教授
(Associate Professor, School of Humanities and Social Sciences, Tsinghua University, Beijing) |
| 周 | 秋 | 芳 | 上海圖書館譜牒研究中心副研究館員
(Associate Professor, Genealogy Researching Centre, Shanghai Library) |
| 沈 | 麗 | 全 | 上海圖書館上海科學技術情報研究所歷史文獻中心閱覽服 |

務部館員

(Readers' Service Department, Historical Literature Center, Institute of Scientific & Technical Information of Shanghai, Shanghai Library)

陳 建 華
馮 金 牛

上海圖書館上海科學技術情報研究所歷史文獻中心副主任
上海圖書館上海科學技術情報研究所歷史文獻中心
業務主管

China (Taiwan)

金 培 懿
黃 寬 重
廖 肇 亨
黃 一 農
黃 銘 崇
許 雅 惠
陳 弱 水

國立雲林科學技術大學漢學研究所助理教授
中央研究院歷史語言研究所研究員
中央研究院中國文哲研究所助理研究員
國立清華大學人文社會學院院長
中央研究院歷史語言研究所副研究員
國立故宮博物院器物處主任
中央研究院歷史語言研究所研究員

Egypt

Azza Wahby

Vice Minister of Parliament Affairs of the Arab Republic of Egypt

France

Jean-Michel Mouton Professeur d'histoire et de civilisation musulmanes médiévales, Université

Germany

Claus M. Fischer

Prof., Universität Göttingen Ostasiatisches Seminar Japanologie

India

Achok Rinpoche

Director, Library of Tibetan Works, Dharamsala

Lobsang Jamyang

Secretary, Tibetan Library, Dharamsala

Lobsang Shastri

Librarian, Tibetan Library, Dharamsala

Kunchok Sithar

Lecturer, Potala College

Indonesia

Ulil A. Abdalla Associate Professor, Institute for Research and Human Resource Development of Nahdlatul Ulama, Jakarta

Iran

Mohsen Kadivar Professor, Tarbiat Modarres University, Tehran

Korea

鄭 光 高麗大学教授
白 斗 鉉 慶北大学校人文大学歴史系教授
李 亨 源 韓神大学校博物館学芸研究士

Mongol

Alimaa Dari モンゴル文化教育大学教授

Nepal

Hubert Durt Chairman, Steering Committee, Lumbini International Research Institute, International College for Advanced Buddhist Studies

Netherlands

Leonard Blussé Professor, Leiden University

Russia

Larissa R. Ousmanova Ph.D. Candidate, Institute for North East Asia Research, The University of Shimane

Margarita I.

Vorobyova-Desyatovskaya Head of the Manuscript Department, St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences

Evgenij I. Kychanov Former Director, St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences

Singapore

Wang Gungwu Director, National University of Singapore

U.K.

Mohamed A. mahmoud
Professor, Tufts University, Birmingham

U.S.A.

Di Wang Assistant Professor, History Department, Texas A
& M University

Philip A. Kuhn Professor, Harvard University

Adam Sabra Western Michigan University

Soren Edgren Editorial Director, Chinese Rare Books Project,
Princeton University

Judith L. Klavans Director, Center for Research on Information Access,
Columbia University, New York

Dwight F. Reynolds Professor, Middle Eastern Studies, University of
California, Santa Barbara

Uzbekistan

Nuryagdi Toshov Research Fellow, Institute of Oriental Studies,
Academy of Sciences

Kamilzhan Khudaiberganov
Senior Research Fellow, Ichon-Qala Museum of Khiva

Vietnam

陳 国 旺 越南国家大学教授

黎 化 蓮 越南考古学院教授

Bui Chi Hoang Institute of Social Sciences in HCM University

Le Thi Lien Researcher M. A., Vietnam Institute of Archaeology

B. 各種研究会等への会場提供サービス

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研究会回数	18	21	14	19	8	16
参加人数	158	418	153	197	82	167

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
17	16	12	11	10	23	185回
362	213	525	125	156	378	2,661人

C. 研究資料の復刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第84巻4号、第85巻1、2、3号	各370部
内国史院檔 一天聰七年-	100部
Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (TBRL3)	80部
近代中国研究彙報 第25号	50部
東洋文庫書報 第34号等2種	各50部

D. 参考情報提供のサービス

『東洋文庫年報』 平成14年度版 A5判 1冊

E. 広報普及

東洋文庫ホームページ（和文・英文）を全面刷新した。

また、東洋文庫図書資料データベース検索ページ（書誌データ）アクセス数を含めて平成15年度1ヶ年間のHP全体のアクセス数は、以下の通りである。

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
アクセス数	14,563	14,839	14,884	16,700	14,915	18,264

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20,104	17,772	42,513	24,096	18,328	20,457	237,435件

5. 職員の研究業績

期間：平成15年4月1日～平成16年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編著 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

浅野 秀剛

②『大江戸日本橋絵巻「熙代勝覧」の世界』（〈吉田伸之氏と共編〉、講談社、2003年10月、104頁）、③「古山師重の枕絵組物」（『館報池田文庫』22、9～11頁、（財）阪急学園池田文庫、2003年4月）、「菱川師宣筆「北楼及び演劇図巻」の検討」（『國華』1295、9～21頁、國華社、2003年9月）、「Surimono Art and Literary Circles: the Genroku Kasen Kai awase and Umazukushi Series」（*HOKUSAI*, Phaidon Press Limited, 2003.11, pp. 58-64.）、「Hishikawa Moronobu: Thoughts on the Publication and Distribution of His Work」（*The Commercial and Cultural Climate of Japanese Printmaking*, Hotei Publishing, 2004.1, pp. 23-41.）、「Tre tipi di stampe ukiyoe: stampe scioltre, biglietti augurali, libri stampati」（*UKIYO E il mondo fluttuante*, Mondadori Electa S.P.A., 2004.2, pp. 46-49.））、⑦「東洋文庫にしかない絵本と浮世絵二十選」（（財）東洋文庫創立80周年記念特別講演会、2003年12月8日、講演録：『東洋文庫書報』35、113～142頁、（財）東洋文庫、2004年4月）、⑧「春本のエクリチュアー」（『読むことの力』講談社選書メチエ293、208～228頁、講談社、2004年3月、講義日：2003年6月27日）、『ボストン美術館日本美術調査図録・第2次調査』（肉筆浮世絵担当、図録編175～268頁、解説編73～126頁、講談社、2003年6月）、『東洋文庫名品展』（小文と図版解説、136頁、会期：2003年12月23日～2004年1月12日、会場：丸ビルホール、日本経済新聞社）。

荒川 正晴

①『オアシス国家とキャラヴァン交易』（山川出版社、2003年12月、82頁）、②『トゥルフアン出土文書および関連伴出資料の調査』（平成12～14年度科学研究費補助金〈基盤研究 B-1〉研究成果報告書、研究代表、荒川正晴、2003年3月、iii+197頁）、③「トゥルフアン漢人の冥界観と仏教信仰」（平成13～15年度科学研究費補助金〈基盤研究 B-1〉研究成果報告書、研究代表、森安孝夫、2004年3月、111～126頁）、⑦「唐代における人の移動と貨幣（絹・銭）の流通」（唐代史研究会夏期シンポジウム、新潟、2003年8月26日）、「中央アジア、トゥルフアン漢人の仏教信仰と冥界観」（超域研究機構プロジェクト研究例会、新潟大学、2003年11月21日）。

飯島 武次

③「洛陽西周時代の遺址与成周・王城」(『考古学研究』5、557~571頁、北京大学考古文博学院、2003年7月)、⑧「関野雄先生を悼む」(『亜洲学誌』2、1~2頁、2003年11月)。

池田 美佐子

③「エジプト立憲君主制期(1930年代~1952年)における貧困をめぐる議論」(平成13~14年度科学研究費補助金、基盤研究C-2、研究成果報告書、2003年6月、108頁)。

石井 米雄

③“A Note on the Identification of a Group of Siamese Port-Polities along the Bay of Thailand”, *Memoirs of the Toyo Bunko* 61, pp. 75~82. 2003、⑥「トンチャイ・ウィニッチャクン『地図が見つかったタイ——国民国家誕生の歴史』」(明石書店、2003年、414頁)。

石塚 晴通

①『岩崎文庫貴重書書誌解題 IV』(佐竹昭広等と共著)、東洋文庫、2004年3月、100頁)、②『寺院経蔵の構成と伝承に関する実証的研究——高山寺の場合を例として——』(2002-2006年度科学研究費基盤研究(S)中間報告書、2004年3月)、③「日本書紀古訓に於ける古代朝鮮語」(『日韓漢字・漢文受容に関する国際学術会議』275~293頁、日韓漢字・漢文受容研究会、2003年7月)、「聲點の起源」(金恵鎮・呉美寧翻譯)『口訣研究』11、23~52頁、口訣學會、2003年8月、Seoul)、「勸修寺藏大教王経頼尊永承点」(大槻信と共著)、『訓点語と訓点資料』111、左22~32頁、訓点語学会、2003年9月)、「敦煌写経研究の現在」(『敦煌写経——北三井家——』6~8頁、三井文庫、2004年1月)、“The data-base focusing on the standard of writing Chinese Characters in Dunhuang manuscripts” (IKEDA Shoju, SHIRAI Jun, TAKADA Tomokazu と共著)、“Proceedings of the Nara Symposium for Digital Silk Roads” 133~136頁、国立情報学研究所、2004年3月)、⑦“Japanese Manuscripts and Forgeries Intermixed among Dunhuang Manuscripts” (大谷探検隊100周年記念国際シンポジウム、2003年9月11日)、「漢字字體資料画像データベース」(池田証壽、白井純と共同発表)、紀念王重民先生誕辰100周年『敦煌写本研究、遺書修復及数字化国際研討会』、中国国家図書館、2003年9月17日)、“Collaboration of philological study and scientific analysis on Dunhuang manuscripts” (KATO Masato と共同発表)、同上国際会議)、「敦煌文献学の現在」(第23回和漢比較文学学会大会招待講演、2003年9月20日)、「敦煌文献学の系譜」(第14回書学書道史学会展示講演、2003年10月12日)、「異文化に於

ける漢字受容の諸問題」(韓国日語日文学会創立25周年記念国際学術大会基調講演、2003年12月12日、Seoul)、⑧フォーラム「日本語史研究と訓点語学会」提題者(訓点語学会創立50周年記念フォーラム、2003年11月14日)。

井上 和枝

②『民族・戦争と家族』(日本家族史論集13、大日方純夫編、吉川弘文館、2003年5月、56~78頁)、『신여성』(『新女性』、青年社・韓国ソウル、2003年10月、81~112頁)、③『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』(「慶尚道・平安道・咸鏡道・解説2」、東洋文庫、2004年3月)、④「19세기 戸籍大帳에서 보는 역촌 사람들의存在樣態——晋州召村里를 중심으로」(『大東文化研究』42、성균관대학교 동아시아학술원 大東文化研究院、2003年6月、209~261頁)、「朝鮮新女性の『近代』受容と『近代』体験——恋愛からファッションまで——」(『韓国朝鮮の社会と文化』2、2003年10月、81~112頁)、⑤「金俊亨他『近代社会変動と両班』(朝鮮史研究会1月例会、2003年1月26日、専修大学)、⑦「19世紀の戸籍大帳から見た駅村の人々」(韓国・成均館大学校東アジア学術院大東文化研究所、2003年4月18日)、「最近の戸籍大帳および戸籍関連研究の動向」(朝鮮史研究会9月例会、専修大学、2003年9月20日)、「韓国における近代文化の受容と新女性の歴史的位置」(日韓歴史共同委員会第3分科、韓国・国史編纂委員会、2003年10月11日)。

井上 和人

③「平城京条坊道路の設計規格について——大宝令大尺=高麗尺説に及ぶ——」(『奈良文化財研究所紀要』2003、32~35頁、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所、2003年6月)、「藤原京と平城京造営の実情」(『文化財研究国際学術大会発表論文12 新羅王査の成果と意義』(韓国語)、119~153頁、国立文化財研究所、国立慶州文化財研究所、2003年9月)。

海野 一隆

①『東洋地理学史研究、大陸篇』(清文堂出版、2004年2月、373頁)、『地図の文化史——世界と日本——』新装版(八坂書房、2004年2月、215頁)、③「藤原貞幹の日本国の原拠」(『古地図研究』311、2~11頁、日本古地図学会、2003年7月)、⑦「地図文化史上の伊能図」(東京国立博物館江戸開府400年記念特別展「伊能忠敬と日本図」記念講演会、2003年11月15日)、⑧「暦と地図のあいだ」(『古地図研究ニュース』43、1~4頁、日本古地図学会、2003年10月)、「剣阿の『日本書紀』跋文」(『日本古書通信』68-11、7~9頁、日本古書通信社、2003年11月)、「江戸時代刊行の東洋系民族図譜の嚆矢」(『日本古書通信』69-3、3~6頁、日本古書通信社、2004年3月)。

衛藤 藩吉

- ①『衛藤藩吉著作集——眠れる獅子——』第4巻（東方書店、2003年11月、v+320頁）、『衛藤藩吉著作集——日本人と中国——』第7巻（東方書店、2003年11月、v+266頁）、『衛藤藩吉著作集——佐藤栄作——』第10巻（東方書店、2003年12月、v+282頁）、『衛藤藩吉著作集——中国分析——』第5巻（東方書店、2004年1月、v+310頁）、『衛藤藩吉著作集——日本の進路——』第9巻（東方書店、2004年2月、v+316頁）、『衛藤藩吉著作集——無告の民と政治——』第8巻（東方書店、2003年3月、v+330頁）、⑦「世界における日本人の役割」（日本仏教徒懇話会第80回懇談会、2003年4月、要旨：『佛教徒フォーラム』1～5頁、日本仏教徒懇話会、2003年6月）、「歴史研究の新しい段階——開会の辞に代えて——」（辛亥革命90周年国際学術討論会、2001年12月、要旨：『辛亥革命の多元構造』2～5頁、汲古書院、2003年12月）、「明治日本と平成日本」（上廣倫理財団：上廣フォーラム21、2003年12月）。

大澤 正昭

- ②『歴史家の工房』（〈豊田浩志〉、SUP 上智大学出版会、2003年4月、vi+309頁）、③「女が三度も結婚するとは！」（『歴史家の工房』、105～123頁、SUP 上智大学出版会、2003年4月）、「中国・元代までの雑穀栽培」（木村茂光編『雑穀——畑作農耕論の地平』、99～122頁、青木書店、2003年5月）、「“妬婦”“悍妻”以及“惧内”——唐宋変革期の婚姻と家庭之変化」（『唐宋女性与社会』、829～848頁、上海辞書出版社、2003年8月）、「唐宋変革期における家族規模と構成——小説史料による分析——」（『唐代史研究』6、59～90頁、唐代史研究会、2003年8月）、「『五口之家』と『一家百余口』——唐宋変革期の『家族』をめぐって——」（関西中国女性史研究会編『ジェンダーからみた中国の家と女』、317～339頁、東方書店、2004年2月）。

太田 幸男

- ②『世界歴史大系・中国史I』（松丸道雄・池田温・斯波義信・神田信夫・濱下武志編、山川出版社、2003年8月、595+81頁）第6章 秦・第7章 前漢および補論3執筆、233～490頁、⑤「佐原康夫『漢代都市機構の研究』」（『東洋史研究』62-2、154～160頁、東洋史研究会、2003年9月）、⑦「出土法律文書にみえる『盗』について」（日本秦漢史学会第15回大会、慶應義塾大学、2003年11月8日）、「歴史地理学と考古学」（陝西師範大学西北歴史環境と経済社会発展研究センター、2004年3月15日）、⑧「中国古代史論文における古典史料の引用方法について」（『東方』266、2～6頁、東方書店、2004年4月）、「談話室：中国の大学事情管見」（『日本の科学者』39-1、22～23頁、日本科学者会議、2004年1月）。

岡田 英弘

①『やはり奇妙な中国の常識』（ワック株式会社、2003年7月、234頁）、③「中国の食の転換点、モンゴル時代」（『中国食文化の歴史』、128～143頁、株式会社NHKエンタープライズ21、2003年7月）、⑦「歴史とはなにか」（国際文化会館別館・オリエント・クラブ、2003年4月25日）、「倭国から日本へ」（国際文化会館別館・オリエント・クラブ、2003年5月23日）、「Introduction to the Japanese translation with commentary of *Erdeni-yin Tobči* by Saghang Sechen Khong Tayiji」（The 46th Annual Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Hotel Dedeman Buyuk Anadolu, Ankara, Turkey, 2003年6月25日）、「野尻湖クリルタイと日本のアルタイ学」（第40回野尻湖クリルタイ、藤屋旅館、2003年7月20日）、⑧「〔対談〕モンゴルとは何か？」（『刀水』7、1～32頁、刀水書房、2003年8月、宮脇淳子と対談）、「女は悩まない 妻も敵なり——この厄介な中国人とつき合うために——」（『月刊べるそーな』9月号、70～76頁、マキコデザイン株式会社、2003年9月、宮脇淳子・浜田麻記子と対談）、「歴史のページ 世界史はモンゴル帝国からはじまった」（『月刊べるそーな』2月号、64～65頁、マキコデザイン株式会社、2004年2月、宮脇淳子と共著）、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 次のハーンは誰であるかクリルタイで決まる」（『月刊べるそーな』3月号、76～79頁、マキコデザイン株式会社、2004年3月、宮脇淳子と共著）。

糟谷 憲一

③『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（『慶尚道・黄海道』、東洋文庫、2004年3月）、「閔氏政権の権力構造とその開化政策・外交政策」（『日韓歴史共同研究プロジェクト第6回シンポジウム報告書』73～86頁、「東アジア認識」研究会、2004年3月）、④「大会総括：第39回大会を聴いて」（『朝鮮史研究会会報』151、1～4頁、朝鮮史研究会、2003年5月）、⑤「趙景達著『朝鮮における民衆運動の展開——士の論理と救済思想』」（『朝鮮史研究会会報』153、15～20頁、朝鮮史研究会、2003年9月）、⑦「閔氏政権の権力構造とその開化政策・外交政策」（日韓歴史共同研究第6回シンポジウム、ソウル大学校国際大学院、2003年8月23日）。

粕谷 元

③「トルコのイスラーム潮流——ヌルスィーとギュレン——」（小松久男・小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』東京大学出版会、63～83頁、2003年12月）、⑦「イスラムの世界——トルコ」（海老名市平成15年度第1期市民教養大学、2003年5月31日）、「トルコ共和国の成立とトルコ革命」（渋谷区民大学、2003年10月24日）、「戦前期代々木のトルコ人コミュニティ」（渋谷区民大学、2003年10月31日）、⑧「革命と共和国」「世俗主義」「アタテュルク」（後藤明・山内昌之編『イスラームとは何か』新書館、2003

年8月)。

金丸 裕一

③「支那科充実講演会寄贈中国語図書『掠奪疑惑』の探求」(『滋賀大学経済学部創立80周年記念論文集彦根論叢』344・345、281~292頁、滋賀大学経済学会、2003年11月)、“Distorting History, Constructing Histories: The Post-war Debate on the Fate of Chinese Texts in Occupied Nanjing”, *Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies*, vol.13, Ritsumeikan Asia Pacific University, pp. 31-67. December 2003.、⑥徐有威編・金丸裕一訳「『前途』記事総目録(1933年1月~1939年4月)」(『近代中国研究彙報』26、53~108頁、財団法人東洋文庫近代中国研究班、2004年3月)、⑧「旧制彦根高等商業学校収集中国語図書目録(監修)」(『滋賀大学経済学部創立80周年記念論文集彦根論叢』344・345、359~437頁、滋賀大学経済学会、2003年11月)、「『海洋中国と日本』を特集するにあたって」(『立命館言語文化研究』15-3、37~38頁、立命館大学国際言語文化研究所、2004年2月)。

岸本 美緒

②『朝鮮と中国 近世五百年をゆく 一国史を超えた東アジア読解』(『世界の歴史12 明清時代と李朝の時代』のハンゲル訳。金炆榮・文純実氏訳、ソウル・歴史批評社、2003年9月、423頁)、『イスラーム地域史研究叢書4 比較史のアジア——所有・契約・市場・公正——』(〈三浦徹氏・関本照夫氏と共編〉東京大学出版会、2004年2月、xi+310頁)、『歴史学事典11 宗教と学問』(弘文堂、2004年2月、818頁)、③「清代における『賤』の観念——冒捐冒考問題をを中心に——」(『東洋文化研究所紀要』144、81~131頁、2003年12月)、「明清時代的“找価回贖”問題」(〈鄭民欽氏訳〉楊一凡総主編『中国法制史考証 丙編 第四卷』423~459頁、中国社会科学出版社、2003年11月)、“Selling Land, Selling People: The Concept of Ownership in Comparative Perspective,”(『日本中東学会年報』19-1、3~26頁、2003年11月)、“Confrontation and Coexistence in 16th- to 18th-Century Asia,” in Takeshi Sasaki ed., *Nature and Human Communities*, (Springer-Verlag, 2004, pp. 7-26)、④「東アジア地域論」(『歴史と地理』564、40~43頁、2003年5月)、⑤「山本進著『清代の市場構造と経済政策』」(『歴史評論』644、95~99頁、校倉書房、2003年12月)。

久保 亨

③「中国企業経営史上的華僑和留学生——“周辺因素”影響下的經濟發展——」(張忠民・陸興龍主編『企業發展中的制度變遷』、上海社会科学院出版社、82~94頁、2003年8月)、「今日の中華民国史研究——轉換した中国近現代史像——」(『歴史学研究』779、2~7頁、2003年9月)、「民国時期上海の工業金融——以金城銀行對於棉紡工業的融資

為例——」（呉景平・馬長林主編『上海金融の現代化と国際化』上海古籍出版社、452～474頁、2003年10月）、「会議の総括」（ワークショップ事務局編『1930-1940年代中国の政策過程』（ワークショップ報告書）、日本語版111～119頁、中国語版95～102頁、2004年2月）、「戦時の工業政策と工業発展——工場登記統計の編纂をめぐって——」（石島紀之編『重慶国民政府の研究（最終報告）』、75～82頁、2004年3月）、「鉱工業生産指数の改訂」（南亮進編『中国の近代経済成長と構造変化に関する数量的・総合的分析』（科研報告書）146～159頁、2004年3月）、⑤「呉曉林著『毛沢東時代の工業化戦略：三線建設の政治経済学』（『中国経済研究』1-1、42～43頁、2003年3月）、⑦“China's Economic Development and the International Order in Asia, 1930s-50s”（Asian Studies Conference in Japan, June 21/2003）、「留学生と近代中国企業」（近代中国留学生国際学術シンポジウム、2003.12.17-18、香港）、「1930年代中国紡織企業的経営改革：誠孚・新裕個案研究」（香港大学アジア研究センター・セミナー、2003年12月19日）、⑧「戦後日本に於ける中国近現代史研究」（第1回日韓歴史家会議に於ける報告、ソウル、2001年11月23-24日『第1回日韓歴史家会議報告集』、2003年3月）。

窪添 慶文

①『魏晋南北朝官僚制研究』（汲古書院、2003年9月、x+524頁）。

熊本 裕

⑦“Another Khotanese-Chinese Bilingual Document from St. Petersburg”（『三科研合同研究会——ユーラシアの言語・過去と現在——』、京都大学羽田記念館、2003年3月21日）、「コートン語『弥勒会见記』について」（京都大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム「ユーラシア古語文献の文献学的研究」、京都大学羽田記念館、2003年5月24日、『ユーラシア古語文献の文献学的研究 NEWS LETTER』No.2、2003年7月11日、pp. 3-5）。

クリスチャン・ダニエルス

②『四川の伝統文化と生活技術』（〈渡部武・霍巍との共編著〉、慶友社、東京、2003年8月、468頁）、『貴州苗族林業契約文書匯編（1736-1950年）』第三巻、史料編・研究編（〈楊有慶・武内房司との共編〉、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2003年3月、612頁）、③「雍正七年清朝によるシブソンパンナー王国の直轄地化について——タイ系民族王国を揺るがす山地民に関する一考察——」（『東洋史研究』62-4、94～128頁、2004年3月）、「訪鍾肇政先生——談話《台湾作家全集》編輯秘聞及其他」（『台湾文学評論』4-1、86～95頁、2004年1月15日）、⑤加藤久美子著『盆地世界の国家論——雲南、シブソンパンナーのタイ族史』、京都大学学術出版会、京都、2000年4月、『東南アジア——歴史と文化——』No.30、137～141頁、2001年6月、東南アジア史

学会)、「中国少数民族が残した林業経営文書——貴州苗族の山林経営文書について」『史資料ハブ地域文化研究』No.3、146～154頁、2004年3月)、⑦“Consolidation and Restructure ; Tai Politics in Northern Continental Southeast Asia during the 15th Century”, Workshop on Southeast Asia in the 15th Century and the Ming Factor, Singapore, Asia Research Institute, University of Singapore, 18 July 2003, “Surveying and Preserving Documents in Dehong, Yunnan, China”, The Literary Heritage of Laos : Preservation, Dissemination, and Research Perspectives Conference, The National Library of Laos, Ministry of Information and Culture, Vientiane, Lao PDR, 16 January 2004。

黒田 卓

②『中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像』(〈高倉浩樹・塩谷昌史と共編〉、東北大学東北アジア研究センター、2003年9月、225頁、序論を執筆、1～5頁)、③「ジャンギャリー運動末期におけるイラン・ソ連関係の一断面——関連ロシア語文書の紹介」(『中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像』、95～110頁、東北大学東北アジア研究センター、2003年9月)。

氣賀澤 保規

③「試論隋唐時代皇后の地位——武則天上台歴史背景の考察」(鄧小南主編『唐宋女性与社会』、867～883頁、上海辞書出版社、2003年8月)、「房山雷音洞石経和金剛経——開山祖師靜琬の刻経事業意義試探」(『北朝摩崖刻経研究(続)』、285～299頁、山東省石刻芸術博物館、2003年12月)、④「ハーバード・イェンチン(燕京)ライブラリーの紹介」(『唐代史研究』6、113～122頁、唐代史研究会、2003年8月)、⑦「唐代における府兵制と兵士たち」(2003年度駿台史学会大会、2003年11月29日、要旨：『駿台史学』121、152・155～156頁、駿台史学会、2004年3月)、⑧「川勝義雄著『魏晋南北朝』」(解説、講談社・学術文庫、468+5+2+解説10頁、2003年5月)。

小松 久男

②『イスラーム地域研究叢書2 現代イスラーム思想と政治運動』(〈小杉泰〉、東京大学出版会、2003年12月、13+354頁)、③「地域間比較の試み：中央アジアと中東」(佐藤次高編『イスラーム地域研究叢書1 イスラーム地域研究の可能性』、49～76頁、東京大学出版会、2003年11月)、「激動の時代：20世紀のイスラーム世界」(小松久男・小杉泰編『イスラーム地域研究叢書2 現代イスラーム思想と政治運動』、1～36頁、東京大学出版会、2003年12月)、「中央アジアにおけるイスラーム復興」(片倉もとこ・梅村坦・清水芳見編『イスラーム世界』、72～97頁、岩波書店、2004年2月)、“Bukhara and Kazan,” *Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)*, 86,

2004, pp.75-90、⑥バフティヤール・ババジャンフ「ソ連解体後の中央アジア：再イスラーム化の波動」（小松久男・小杉泰編『イスラーム地域研究叢書2 現代イスラーム思想と政治運動』、東京大学出版会、2003年、12月、167～193頁）、⑦“Modern Central Eurasian Studies in Japan: An Overview,” Central Eurasian Studies Society Fourth Annual Conference, Oct. 4, 2003, Harvard University, “The Andijan Uprising (1898) Reconsidered,” Indiana University, Department of Central Eurasian Studies, Jan. 20, 2004, “The Andijan Uprising of 1898 Reconsidered,” The Central Asia Lecture Series co-sponsored by the Central Asian Studies Program and the Center for Russian, East Europe, and Central Asia, Jan. 26, 2004, Wisconsin University, “Islamic Resurgence and Tariqa in Modern Central Asia,” Japan Association for Middle East Studies International Workshop *Changing Knowledge and Authority in Islam*, March 25, 2004, The University of Tokyo、⑧「中央アジアのイスラーム復興：フェルガナ地方を中心に」（慶應義塾大学地域研究センター編『21世紀とイスラーム世界：その多様性と現代的課題』慶應義塾大学出版会、2003年9月、3～34頁）、「イシャーニ：中央アジアの聖者と政治」（佐藤次高編『キーワードで読むイスラーム：歴史と現在』2003年10月、157～180頁）、「ジャボンヤ：イスラーム世界と日本」（佐藤次高編『キーワードで読むイスラーム：歴史と現在』2003年10月、157～205頁），“Teaching Central Asian History in Japan: Some Practice and Experience,” *Central Eurasian Studies Review*, 2003, pp. 38-39、『ロシアを知る事典』（平凡社、2004年2月）に「ウスベキスタン」「ジャディード運動」「ロシア・ムスリム大会」など15項目を執筆。

佐藤 次高

①『世界史選書 イスラームの国家と王権』（Ⅷ+213+10頁、岩波書店、2004年1月）、②『キーワードで読むイスラーム』（208頁、山川出版社、2003年10月）、『イスラーム地域研究の可能性』（264頁、東京大学出版会、2003年11月）、『世界史小辞典』（〈有賀貞など〉1063頁、山川出版社、2004年1月）、③“Visits to the Tomb of the Saint Ibrahim,” pp. 38-52, *Acta Asiatica* 86, February 2004、「焦点と未来への展望」（片倉もとこ他編『イスラーム世界』268～280頁、岩波書店、2004年2月）、⑦“Sugar in the Economic Life of Mamluk Egypt.” Conference on Mamluk Studies, The University of Chicago, 7 May, 2003、「ナイルの歴史と歴史家たち」（「エジプトのイスラーム文様」講演会、中近東文化センター、2003年10月11日）、「アラブ——都市に生きる人々——」（（財）東洋文庫秋期東洋学講座、2003年10月14日、要旨：『東洋学報』85-4、553頁、東洋文庫、2004年3月）、「聖者イブラーヒーム伝説」（日本オリエント学会年次大会公開講演、金沢大学、2003年10月25日）、「バグダードの顔役」（明治学院大学横浜市市民講座、明治学院大学、2003年11月15日、要旨：『横浜市市民講座報告書』、17～19頁、2004年1月）、

「日本におけるイスラーム研究と資料収集の現状」(国立国会図書館関西館、2003年11月20日)、「イスラーム史のなかの砂糖」(上智大学アジア文化研究所、2003年12月10日)、⑧読書案内「『聖地エルサレム』を読む」(『世界史の研究』195、44～47頁、2003年5月)、巻頭言「砂糖のイスラーム社会史」(『史滴』25、早稲田大学、2003年12月)。

塩沢 裕仁

③「洛陽八閩とその内包空間——漢魏洛陽盆地の空間的理解に触れて——」(『法政考古学』30、89～106頁、法政考古学会、2003年11月)、⑦「漢魏の許昌」(中国史学会(大韓民国)、第41回学術発表会、2003年12月13日、要旨:『伝統時代 中国史の再理解』、91～106頁、中国史学会(大韓民国)、2003年12月)、⑧「伊藤玄三先生を送る(伊藤玄三先生を送る言葉)」(『法政史学』61、139～140頁、法政史学会、2004年3月)。

滋賀 秀三

③「中国における法典編纂の歴史——新著刊行の報告」(『日本学士院紀要』58-1、21～33頁、日本学士院、2003年9月)。

斯波 義信

③「《新刻客商一覽醒迷天下水陸路程》略論」(雲南大学歴史系編『李埏教授九十華誕紀年文集』、342～348頁、雲南大学出版社、2003年11月)、「海洋アジア史における中国」(斯波義信・川勝平太・濱下武志編『海と資本主義』、37～65頁、東洋経済新報社、2003年7月)、⑤“Prosperity, Region, and Institutions in Maritime China: The South Fukien Pattern, 946-1368 (Billy Kee-long So)”, International Journal of Asian Studies, (The Institute of Oriental Culture, University of Tokyo & Cambridge University Press) vol.1. part1, Jan. 2004, pp.192-195、⑦「東アジア海事史の諸問題」(韓国中国史学会主催〈東アジアの国際関係史〉シンポジウム、檀国大学校、2003年9月20日)、「伝統中国的商業、交通と城市発展」(台湾中央研究院歴史語言研究所主催〈慶祝歴史語言研究所成立七十五週年傅斯年講座〉、2003年12月10日、15日、17日)、⑧「華僑学の構築をめぐる——その視座といくつかの方法——」(『中国21』17、3～26頁、風媒社、2003年11月)。

妹尾 達彦

②『宋史食貨志訳注(五)』(中嶋敏編、東洋文庫、221～309頁、2004年3月)、③「恋愛——唐代における新しい両性認識の構築——」(『唐代史研究』6、28～40頁、2003年8月)「“才子”与“佳人”——九世紀中国的新的男女認識形成」(鄧小南主編『唐宋女性与社会 下 北京大学盛唐叢書』上海辞書出版社、698～727頁、2003年8月)、「崔宰榮訳「唐代洛陽——新しい研究動向——」」(ソウル大学校東亜文化研究所編『中国歴史代

都市構造と社会変化』ソウル大学校出版部、53～104頁、2003年11月)、「韋述『兩京新記』与8世紀前葉の長安」(榮新江主編『唐研究』9、北京大学出版社、9～52頁、2003年12月)、「首都と国民広場——現代北京における天安門広場の建築」(関根康正編『〈都市的なるもの〉の現在——文化人類学的考察』東京大学出版会、269～312頁、2003年2月)、“The Printing Industry in Chang’an’s Eastern Market in the Tang Dynasty,” (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, 61, 2004.)、⑦「中国大陸の城郭都市と小城寨：3世紀～13世紀」(日欧比較城郭史研究会、東京日仏会館、2003年5月10日)、「新出唐代墓誌與韋述《兩京新記》、宋敏求《長安志》之比較研究」宋代墓誌史料の文本分析與實証運用 國際學術研討會(台北・東呉大学、2003年10月18日)、「世界都市長安における西域人の暮らし」(奈良とシルクロードの語り部たち)組織委員会、奈良県新公会堂能楽ホール、2003年11月1日、要旨『奈良とシルクロードの語り部たち 2003年度』10～16頁、2003年11月)、「東アジアの都城と王権——6世紀～10世紀」(東方学会全国総員会議シンポジウム、日本教育会館、2003年11月7日(講演要旨『東方学』107、192～194頁、2004年1月)、「歐亜大陸歴史上的中国西北部開闢的位置」“西部大開發与環境保護問題國際研討會”(西安・陝西師範大学、2003年12月22日)、「中国都市史研究の現在——3世紀から13世紀までを中心として」(前近代都市論研究会、大阪歴史博物館、2004年2月28日)、「近年における隋唐王権儀礼研究の動向」東アジア比較儀礼史研究会第4回例会、中央大学後樂園キャンパス、2004年3月13日)、「長安とトンプクトゥーアフロ・ユーラシア大陸における都市の形成と変貌」(中央大学人文科学研究所公開シンポジウム、中央大学人文科学研究所、2004年3月3日)、「中国の都についての研究の現段階」中央大学人文科学研究所公開シンポジウム、中央大学後樂園キャンパス、2004年3月31日)、⑧「『唐代の新しい見方』国際会議(2002年4月18・19・20日 于プリンストン大学)に出席して」(『中唐文学会報』10、134～139頁、2003年9月)、「シンポジウムⅡ 東アジアの都城と王権——6世紀～10世紀」(『東方学会会報』85、10～12頁、2003年12月)、「8世紀前半の長安とユーラシア大陸東部の政治動向」(田村晃一編『渤海都城の考古学』平成14年度～平成15年度科学研究費補助金基盤研究(C)(1)研究成果報告書、8～11頁、2004年3月)。

關尾 史郎

③「サントベテルブルグ藏、戸籍様文書簡介」(『法史学研究会会報』8、74～80頁、法史学研究会、2003年9月)、「トゥルファン将来、「五胡」時代契約文書簡介」(『西北出土文献研究』創刊号、71～90頁、西北出土文献研究会、2004年3月)、「翟彊をめぐる断章——『吐魯番出土文書』割記12——」上(『資料学研究』1、左27～42頁、新潟大学大学院現代社会文化研究科「大域的文化システムの再構築に関する資料学的研究」プロジェクト、2004年3月)、「遼寧出土、「五胡」時代墓記考釈——「東晋永昌三年正月李虎墓記」ならびに「後燕建興十年崔暹墓記」をめぐる——」(『環日本海研究年報』

11、新潟大学大学院現代社会文化研究科「環日本海地域の形成と国際的秩序の歴史的形成」プロジェクト、2004年3月）、④「サンクトペテルブルグ所蔵敦煌文献をめぐる問題と動向」（『敦煌学国際聯絡委員会通訊』創刊号、34～40頁、敦煌学国際聯絡委員会・中国敦煌吐魯番学会、2003年12月）、⑦「中国史における元号と国際関係——「五胡」時代の西北出土史料の紹介をかねて——」（韓国・木浦大学校閔斗基紀念文庫中国中世史国際学術研討会、2003年4月25日、要旨：『木浦大学校閔斗基紀念文庫中国中世史国際学術研討会発表要旨』、9～11頁、木浦大学校歴史文化学部、2003年4月）、「サンクトペテルブルグ、ヘルシンキ所蔵漢文文書瞥見」（新潟大学東アジア学会例会、2003年6月28日、要旨：『東アジア——歴史と文化——』13、30～31頁、新潟大学東アジア学会、2004年3月）、「サンクトペテルブルグ所蔵、中央アジア出土漢文文献について」（サンクトペテルブルグ創建300年記念新潟大学人文学部・サンクトペテルブルグ大学東洋学部共催国際ワークショップ、2003年9月23日、要旨：『サンクトペテルブルグ所在史料に見るアジア』、15～17頁、新潟大学文学部、2004年2月）。

関本 照夫

②*Handicrafts in the Age of Global Economy : Indonesia and Japan*, coauthored with Semiarto Aji Purwanto and Hanantiwi Adityasari, Center for Japanese Studies, University of Indonesia, 2003.12, 78pp, 『イスラーム地域研究叢書4 比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』（〈三浦徹・岸本美緒〉、東京大学出版会、2004年2月、xi+310頁）、③“Selves and others in Japanese anthropology,” Akitoshi Shimizu and Jan van Bremen eds., *Wartime Japanese Anthropology in Asia and the Pacific*, (Senri Ethnological Studies No.65), National Museum of Ethnology, 2003.12, pp. 131-142、「工芸生産に見る市場とコミュニティー：ジャワのパティック業」（『研究彙報』5、特定領域研究「資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築——象徴系と生態系の関連をとおして」、自然資源の認知と加工” 研究班、2004年2月、3～7頁）。

曾田 三郎

③「海外政治視察団の派遣決定過程と日露講和問題」（『広島東洋史学報』8、15～28頁、広島東洋史学研究会、2003年11月）、「清末の憲政準備と日本での官制改革論」（孫文研究会編『辛亥革命の多元構造』、301～316頁、汲古書院、2003年12月）。

武田 幸男

③「新羅蔚珍鳳岬碑の〈教事〉主体と奴人法」（『朝鮮学報』187、1～38頁、朝鮮学会、2003年4月）、「〈広開土王碑〉墨本の基礎的研究」（『東方学』107、1～19頁、東方学会、2004年1月）、⑧「『広開土王碑』に描かれた〈倭〉」（『別冊歴史読本』640、102～

108頁、新人物往来社)。

立川 武蔵

①『空の思想史』(講談社、2003年6月、340頁)、*Mother-Goddesses in Kathmandu* (Adroit Publishers, Dolhi, 2003年12月、192頁)。

田村 晃一

②『渤海都城の考古学的研究』(東洋文庫、2004年3月、57頁)、⑦「クラスキノ土城の調査とその意義」(シンポジウム『渤海考古学の最新成果』、7~17頁、ソウル大学校博物館、2003年8月)、「東アジアの城郭の比較」(国際シンポジウム『グスク文化を考える』、24~37頁、今帰仁村教育委員会、2004年1月)、「渤海と日本の交流を追って」(TOGI 渤海シンポジウム『古代東アジアの渤海と日本』、3~16頁、富来町、2004年2月)。

竺沙 雅章

③「黒水城出土の遼刊本について」(『汲古』43、20~27頁、汲古書院、2003年6月)、⑦「宋元版大藏経について」(第41回杏雨書屋特別展示会講演、2003年11月18日)、「中村不折収蔵の西城出土漢文仏典について」(第3回東アジア出版文化に関する国際学術会議、2003年11月29日)。

辻本 裕成

③「人をその人と指さぬこと——女流日記文学の人称をめぐって——」(『南山大学日本文化学科論集』4、南山大学日本文化学科、2004年3月)、「『鬼』と『虫』——「心の鬼」論に向けて——」(『アカデミア 人文・社会科学篇』78、南山大学、245~286頁、2004年1月、長谷川雅雄、ペトロ・クネヒト、美濃部重克との共著)。

鶴見 尚弘

⑦「全国公立短期大学の現状と展望」(第6回日米短期大学国際交流セミナー、ハワイ州立大学東西文化センター、2003年6月17日)、「はぐくみあう地域と大学、新県立大学の設置に当って」(2003年県民コミュニティーカレッジ・シリーズ、山梨県立女子短期大学、2003年10月25日)、⑧「全国公立大学の現状と展望」(『日米短期大学国際交流セミナー報告書』(17~20頁、全国公立短期大学協会、国際交流推進委員会、2003年12月)、「怪我の功名」(『山梨科学アカデミー会報』17、山梨アカデミー、2003年11月)、「『義勇兵』になった中学二年生——満蒙開拓団とすごした日々——」(『わたしたちのアジア太平洋戦争2』、231~243頁、童心社、2004年3月)。

寺田 浩明

- ②『中国法制史考証』丙編「日本学者考証中国法制史重要成果選訳」全4巻（中国社会科学出版社、2003年9月、599+488+477+736頁）、③「民間法論を超えて」（『ジェリスト』1258、57～64頁、有斐閣、2003年12月）、「合意と契約——中国近世における「契約」を手掛かりに」（三浦徹・関本照夫・岸本美緒編『イスラーム地域研究叢書4 比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』、89～112頁、東京大学出版会、2004年2月）、④「近百年日本学者考証中国法制史論文著作目録」（『中国法制史考証』丙編「日本学者考証中国法制史重要成果選訳」第4巻付録、中国社会科学出版社、2003年9月、523～736頁）。

朽尾 武

- ③「滇金絲猴を求めて——雲南の旅——」（『成城国文学』20、100～123頁、成城国文学会、2004年3月）、『『山海経』と類書における猿猴』（『和漢古典学のオントロジ』1、1～17頁、日本学術振興会平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（B））、2004年3月）、「明・蔣應鎬畫『山海経』——明刊本と和刻本——」（『成城國文學論集』291～221頁、成城大学大学院文学研究科、2004年3月）。

富澤 芳亜

- ③「対1930年代中国紡織業的金融資本認識」（呉景平、馬長林主編『上海金融的現代化與國際化』475～487頁、上海古籍出版社〔上海〕、2003年10月）、⑤「〈書評〉森時彦著『中国近代綿業史の研究』」（『史学雑誌』113-1、85～91頁、2004年1月）、「〈史料紹介〉青島市档案馆（Qingdao Municipal Archives）の紹介」（『福祉文化』3、49～52頁、2004年2月）、⑦「1930年代の江蘇省における営業税の導入について」（2003年度広島史学研究会大会東洋史部会、2003年10月26日、要旨：『史学研究』242、広島史学研究会、2003年9月）、「1930年代中国紡織学会與留日学生」（近代中国留学生国際学術研討会〔中国香港特別行政区・香港歴史博物館〕、2003年12月17日）。

中兼 和津次

- ③「開発と移行過程における腐敗の経済学」（『アジア経済』44、5・6、27～46頁、アジア経済研究所、2003年6月）、「中国の経済発展パターン——普通の国へ」（浜田宏一＋内閣府経済社会総合研究所編『世界経済の中の中国』、79～95頁、N T T出版、2003年11月）、④「中国経済のゆくえ——躍進を続ける中国経済の課題と展望」（『経済セミナー』589、28～31頁、日本評論社、2004年2月）。

中野 真麻理

- ③「『十二類歌合』覚書」（奈良絵本・絵巻国際会議編『奈良絵本・絵巻研究』1、2003

年9月、35～47頁）。

中見 立夫

③「内外満学・清史研究剖記」（『満族史研究』2、156～171頁、満族史研究会、2003年5月）、「江上波夫と内モンゴルのオロン・スム遺跡調査」（『オロンスム——モンゴル帝国のキリスト教遺跡——』、77～88頁、横浜ユーラシア文化館、2003年7月）、「清朝内閣大庫明清檔案の流転と台湾・中央研究院歴史語言研究所に所蔵される満洲語檔案」（『東方学』106、139～150頁、東方学会、2003年7月）、「關於《百二老人語録》的各種抄本」（朱誠如主編『清史論集——慶賀王鍾翰教授九十華誕』、337～347頁、北京・紫禁城出版社、2003年8月）、「Г.М.Семенов ба Монгол цэргүүд」（*Mongolica, an International Annual of Mongol Studies* 13 (34), pp.122-127, International Association for Mongol Studies, 2003）、「《Qaračin-u Menggü yuan liu》 kemekü teiken surbulčis-un tuqai」（中国蒙古史学会編『蒙古史研究』7、pp. 548-561、呼和浩特・内蒙古大学出版社、2003年12月）、「川島浪速と北京警務学堂・高等巡警学堂」（学術文献刊行会編集『日本史学年次別論文集2001年版/近現代2』、655～659頁、朋文出版、2004年3月）、「“北東アジア”はどのように、とらえられてきたか」（『北東アジア研究』7、43～56頁、鳥根県立大学北東アジア地域研究センター、2004年3月）、④「“表象”から“地域”をみる：最近、開催された東北アジア地域関係展覧会から」（『ニューズレター』15、111～117頁、近現代東北アジア地域史研究会、2003年12月）、「東アジアの社会変容と国際環境、平成15年度第1回（通算第18回）研究会、研究セミナー：中国東北地域図書館における地方史資料収蔵の状況」（『通信』110、40～41頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2004年3月）、⑦「特別講演：内モンゴル史への視点」（第7回モンゴル学術交流会、2003年6月7日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）、「關於《百二老人語録》的各種抄本」（清史・満族史国際学術討論会、2003年8月17日、北京：賽迪大酒店）、「“北東アジア”はどのように、とらえられてきたか——モンゴルとの係わりで——」（モンゴル学シンポジウム——モンゴル学の再構築と北東アジア学としての位置づけをめざして——、2003年9月28日、浜田：鳥根県立大学）、「日本人所認識の“満洲”」（第1屆清史学術研討会、2003年10月29日、宜蘭県：仏光人文社会学院）、「内モンゴルと外モンゴルのあいだ」（シンポジウム《モンゴルという世界》、2003年11月17日、東北学院大学）、「“東部内蒙古”という空間」（第13回近現代東北アジア地域史研究会大会：シンポジウム《近代日本と“東部内蒙古”》、2003年12月6日、東京経済大学）、「パネルディスカッション：中国所在の日本関係資料について」（第4回海外所蔵日本資料データベース会議、2003年12月13日、九州大学）、⑧「紀念黒龍江省満語研究所建所二十周年專家座談会紀要」（『満語研究』37、19～24頁、2003年12月）、「第4回海外所蔵日本関係資料データベース会議記録第1部：中国所在の日本関係資料について」（『平成15年度科研研究研究成果報告書：東アジア所在日本語古典

籍調査のデータベース構築のための国際会議』、94～111頁、松原孝俊、2003年3月）、
「ホルバート」【辞典項目】（丸山雍正・小風秀雅・中村尚史編『日本交通史辞典』、吉川
弘文館、2003年9月）、「ノモンハン事件」ほか【辞典項目】（世界史小辞典編集委員会
編『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2004年1月）、「キャフタ条約」【辞
典項目】（川端香男里ほか監修『【新版】ロシアを知る事典』、平凡社、2004年1月）。

長沢 栄治

- ③「アラブ共産主義者の受難」（私市正年・栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と
民主化』（イスラーム地域研究叢書3）、127～150頁、東京大学出版会、2004年1月）、
- ⑤「加藤博著『イスラーム世界論』（『社会経済史学』69-1、103～105頁、2003年5月）、
- ⑧「トマホークでイラクは民主化するか」（『現代思想』31-5、80～85頁、2003年4月）。

林 俊雄

③“Uigur Policies toward Tang China”（Memoirs of the Research Department
of The Toyo Bunko. No.60, 2002, pp.87-116）、「中央ユーラシア遊牧民の古墳から見
た王権の成立と発展」（角田文衛、上田正昭監『古代王権の誕生Ⅲ：中央ユーラシア・
西アジア・北アフリカ編』角川書店、2003年6月、46～69頁）、“Sogdian Influences
Seen on Turkic Stone Statues : Focusing on the Fingers Representations”
（Matteo Compareti et al., ed., Webfestschrift Eran ud Aneran : Studies Presented
to Boris Ilich Marshak on the Occasion of His 70th Birthday. Electronic Version,
October, 2003）[Web版のため頁数なし]、「草原遊牧文明の環境考古学」（安田喜憲編
『環境考古学ハンドブック』朝倉書店、2004年2月、636～645頁）、④“In Memory of
the Late Professor Egami Namio”（Memoirs of the Research Department of
The Toyo Bunko. No.60, 2002, pp.123-129）、「江上波夫先生と内陸アジア研究」（『内
陸アジア史研究』18、2003年3月、75～78頁）、⑦“Birth of the Cities and those Roles
in the Nomadic States”（International Conference “Urban and Nomadic Socie-
ties in Central Asia : History and Challenges.” Institute of Oriental Studies,
Republic of Kazakhstan, Almaty, May 23 2003）、“Comparative Study on the
Mausoleums of the Tuque and the Chinese Rulers（“漢唐陵墓制度研究” 国際学
術研究会、西安、2003年10月21日）。

原 實

①Pāsupata Studies, edited by Jun Takashima, Publications of the de Nobili
Research Library, edited by Gerhard Oberhammer and Utz Podzeit, volume
XXX（Vienna 2002）, pp. 1-320、②Gedenkschrift J. W. de Jong, edited by H. W.
Bodewitz and Minoru Hara, Studia Philologica Buddhica Monograph Series

X VII (Tokyo 2004) pp. xx 257、③“A Note on the Sanskrit Word *kopa*,” (Orientalia Suecana (Uppsala, Sweden) vol.LI-LII (2002-2003) pp. 165-188.), “The Hindu Concept of Friendship, A Note on Sanskrit *pranaya*,” (Rivista degli Studi Orientali, volume LXXV 2001 (Roma 2002) pp. 157-187.), “A Note on the Concept of Plants and Trees,” (Jainism and Early Buddhism : Essays in Honor of Padmanabhi S. Jaini, edited by Olle Qvarnström (Fremont California 2003), pp. 465-468.), “*Sāstra* versus *śāstra*,” (Gedenkschrift J. W. de Jong (Tokyo 2004) pp. 49-64.), ⑤「高田修著『仏教の説話と美術』(講談社学術文庫、解説、318～325頁、2004年1月)、⑦“Words for Love in Sanskrit,” (Symposium “Passioni d’ Oriente” at the University of Roma on 30 May, 2003)。

平野 健一郎

③「全球化進程中亜太地区の社会・文化演変与区域研究」(徐顕芬訳、中国社会科学研究会編『全球化下的中国与日本——海内外学者的多元思考』31～42頁、社会科学文献出版社、北京、2003年4月)、「国際文化から見た文化の未来——グローバルゼーションのなかで文化の多様性をどう守るか——」(『応用社会学研究』No.45、1～8頁、立教大学社会学部、2003年4月)、“Interactions among Three Cultures in East Asian International Politics during the Late Nineteenth Century : Collating Five Different Texts of Huang Zun-xian’s ‘Chao-xian Ce-lue’ (Korean Strategy)” (Waseda COE-CAS, Working Paper 5, November 2003, 36pp.), ⑦“The Introduction of Concepts of International Power Politics into East Asia in the 1880s” (Paper presented to the Conference on “Reception of International Law by Late Choson Korea : A Comparative Approach”, at Maui Prince Hotel, July 24-26, 2003)。

弘末 雅士

①『東南アジアの建国神話』(山川出版社、2003年4月20日、iv+90+2頁)、②『世界史小事典』(共編、山川出版社、2004年1月21日、xvi+1063+1頁)。

深沢 眞二

③「芭蕉の笑い——ほととぎす二題」(『国文学』48-8、111～115頁、学燈社、2003年7月)、「月見三句考——元禄三年の芭蕉」(『連歌俳諧研究』105、1～9頁、俳文学会、2003年9月)、「「めづらしや」歌仙注釈(上)」(『和光大学表現学部紀要』4、1～16頁、和光大学、2004年3月)。

介納 才一

①『華中農村経済と近代——近代中国農村経済史像の再構築への試み』(汲古書院、2004

年2月、iii+288頁)、⑤「笹川裕史『中国民国期農村土地行政史の研究』(『社会経済史学』第69巻第4号、107~109頁、社会経済史学会、2003年11月)。

堀 敏一

③「古代中国の家父長制——その成立と特徴」(『家と家父長制』、155~185頁、早稲田大学出版部、2003年7月)。

松重 充浩

⑧「日本外務省外交史料館所蔵『安東密輸問題』関係史料についての覚書」(『ロシア・サハリンにおける日本人植民地遺産と朝鮮人に関する緊急調査研究』平成14年度~平成15年度科学研究費補助金(基盤(C)(1))研究成果報告書、研究代表者; 崔吉城、51~58頁、2004年3月)、「第12回近現代東北アジア地域史研究会大会報告」(『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』15、156~168頁、2003年12月)。

三浦 徹

②『イスラーム地域研究叢書4 比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』(岸本美緒・関本照夫)、東京大学出版会、2004年2月、xi+310頁)、③「原理的比較の試み」(『比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』、1~17頁、東京大学出版会、2004年2月)、「当事者の世界と法廷の世界: イスラーム法における契約」(『比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』、113~140頁、東京大学出版会、2004年2月)、“Court Contracts and Agreements among Parties in the Islamic Middle East”, *Annals of Japan Association for Middle East Studies* (『日本中東学会年報』)、19-1、2003. 9, pp.45-74、⑦「アラブ——都市に生きる人々」((財)東洋文庫秋期東洋学講座、2003年10月14日、要旨:『東洋学報』85-4、99~102頁、2004年3月)。

水野 善文

⑥「アジャーミラ物語——『バーガヴァタ・プラーナ』第6巻に見る称名——」(『宮澤正順博士古稀記念・東洋——比較文化論集——』、495~506頁、青史出版、2004年1月)、⑦「神も悪魔も人間も——インドを舞台に——」(東京外国語大学総合文化研究所公開講座『世界の神々』、2003年10月12日、要旨:『総合文化研究——ブックレット——』3(世界の神々)、13~23頁、東京外国語大学総合文化研究所、2004年2月)、⑧(辞典項目)「カルマ」「サンサーラ」「ニルヴァーナ」「仏教」「仏教僧伽」(岸本美緒責任編集『歴史学事典11 宗教と学問』、弘文堂、2004年2月)。

三谷 孝

③「反革命鎮圧運動と一貫道——山西省長治県の事例——」(『近代中国研究彙報』26、

1～26頁、東洋文庫、2004年3月)。

村井 章介

①『日本の中世10 分裂する王権と社会』(中央公論新社、2003年5月、306頁)、②『8-17世紀の東アジア地域における人・物・情報の交流——海域と港市の形成、民族・地域間の相互認識を中心に——(上)(下)』(平成12年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書、東京大学大学院人文社会系研究科、2004年3月、上巻iv+494頁・下巻iv+487頁)、③「東アジア諸国と日本の相互認識——15・16世紀の絵地図を中心に——」(小島孝之・小松親次郎編『異文化理解の視座——世界からみた日本、日本からみた世界——』、39～56頁、東京大学出版会、2003年4月)、「列島内外の交流史」(赤堀憲雄他編『いくつもの日本Ⅲ 人とモノと道と』、3～38頁、岩波書店、2003年5月)、“Espace régional et construction de l'État dans l'archipel japonais au Moyen Âge” *Annales-Histoire, Sciences Sociales*-58-5、981～1008頁、ARMAND COLIN、2003年10～11月)、「綾小路三位と綾小路前宰相——『看聞日記』人名表記法寸考——」(『文学』4-6、168～175頁、岩波書店、2003年11～12月)、「鉄砲はいつ、だれが、どこに伝えたか」(『歴史学研究』785、11～29頁、青木書店、2004年2月)、「中世の外交と禅寺・禅僧」(国立歴史民俗博物館編『中世寺院の姿とくらし——密教・禅僧・湯屋——』、120～139頁、山川出版社、2004年2月)、⑥「南基鶴「高麗と日本の相互認識」」(平成12年度～平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))研究成果報告書『グローバル化の歴史的前提に関する学際的研究』、立教大学文学部、2003年8月、309～324頁)、⑦「外国人の見た石見銀山」(全国大学生島根キャンブ2003第2回石見銀山講座、2003年8月19日)、「建長寺住持蘭溪道隆の画期性」(2003年鎌倉学セミナー第1回「鎌倉と中国文化」、2003年9月18日)、「銀山と海賊——16世紀後半のヨーロッパ製地図に描かれた日本列島周辺——」(21世紀 COE “15・16・17世紀成立の絵図・地図と世界観”第3回国際シンポジウム〔京都大学文学部〕、2003年9月28日)、「抑留記・漂流記に16-17世紀の北東アジアを読む」(平成15年度九州国立博物館(仮称)国際シンポジウム、“海賊と漂流——異文化接触のさまざまなかたち”、2003年10月25日)、「鉄砲伝来と大分」(大分県立先哲史料館平成15年度秋季企画展記念講演会、2003年11月2日)、「抑留記・漂流記に16-17世紀の北東アジアを読む」(ブリティッシュ・コロンビア大学日本研究センターシンポジウム“Dimensions of Japanese Ethnicity Within and Without, 1543-1945”、2003年11月6日)、⑧『『勘仲記』弘安四年夏記——翻刻と注釈——』(『鎌倉遺文研究』12、72～104頁、吉川弘文館、2003年10月)。

森安 孝夫

②『シルクロードと世界史』(大阪大学21世紀 COE プログラム「インターフェイスの人

文学」報告書第3巻、大阪大学文学研究科、2003年12月、xv+324頁、地図8枚）、『中央アジア出土文物論叢』（京都、朋友書店、2004年3月、vii+181頁）、③「コレージュ＝ド＝フランス講演録 ウイグル＝マニ教史特別講義」“Four Lectures at the Collège de France in May 2003. History of Manichaeism among the Uighurs from the 8th to the 11th Centuries in Central Asia.”（森安孝夫編『シルクロードと世界史』大阪大学21世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」報告書第3巻、23～111頁、大阪大学大学院文学研究科、2003年12月）、「シルクロード東部における通貨——絹・西方銀銭・官布から銀錠へ——」（森安孝夫編『中央アジア出土文物論叢』京都、朋友書店、2004年3月、1～40頁）、④「ハミルトン博士の訃」（『内陸アジア言語の研究』18、i-vi頁、中央ユーラシア学研究会、2003年8月）、「コラム歴史の風 シルクロードからの風」（『史学雑誌』113-3、34～36頁、史学会、2004年3月）。

柳田 征司

③「龍門文庫蔵『洗心経』について」（『国語国文』72-4、39～53頁、京都大学国語国文学会、2003年4月）、「音韻史」（上野善道『朝倉日本語講座3 音声・音韻』、43～60頁、朝倉書店、2003年6月）、「国語資料としての吉田文庫の抄物——特定の原典を持たない一種の抄物——」（『ビブリア』120、3～33頁、天理大学附属図書館、2003年10月）、「拗音」（『国語語彙史の研究』23、2004年3月）、⑤「来田隆著『抄物による室町時代語の研究』」（『国語学』55-1、30～35頁、2004年1月）、⑦「抄物と日本語史研究」（神田寺記念公開講座『書物と日本仏教』第6回、2003年7月4日、『斯道文庫論集』38、61～99頁、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、2004年2月）、⑧「貝原益軒『和州芳野山勝景図』」（『木の実』58-4、10・11頁、木の実発行所、2003年4月）、「昌住撰『新撰字鏡』抄録本」（『木の実』58-5、10・11頁、木の実発行所、2003年5月）、「曲直瀬道三『類証弁異全九集』」（『木の実』58-6、10・11頁、木の実発行所、2003年6月）、「撰者未詳『洗心経』」（『木の実』58-7、6・7頁、木の実発行所、2003年7月）、「清原良賢『三略秘抄』」（『木の実』58-8、12・13頁、木の実発行所、2003年8月）、「惟高妙安抄『中興禅林風月集抄』」（『木の実』58-9、6・7頁、木の実発行所、2003年9月）、「コリヤード『羅西日辞書』」（『木の実』58-10、6・7頁、木の実発行所、2003年10月）、「宮内庁書陵部蔵『成句弁覧』」（『木の実』58-11、6・7頁、木の実発行所、2003年11月）、「【研究余瀆】晴山人編『日本昆虫方言』」（『愛媛国文と教育』36、24・26頁、2003年12月）、「雪庭春積講『禅宗無門関抄』」（『木の実』58-12、10・11頁、木の実発行所、2003年12月）、「撰者未詳『本朝詩仙註』」（『木の実』59-1、10・11頁、木の実発行所、2004年1月）、「惟高妙安抄『詩学大成抄』」（『木の実』59-2、8・9頁、木の実発行所、2004年2月）、「高山寺蔵『無門関抄』（二）」（『平成十五年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集』、5～8頁、2004年3月）。

柳田 節子

- ①『宋代庶民の女たち』(222頁、汲古書院、2003年5月)、③「論南宋時期家産分割中の“女承分”」(楊一凡主編『中国法制史考証』丙編第3卷[日本学者考証、中国法制史重要成果選訳宋遼西夏元卷]、296~315頁、中国社会科学出版社、2003年9月)、④「宋代“女子分法”をめぐる滋賀・仁井田論争その後」(『中国女性史研究』13、2004年1月)、⑧「思い出すことなど」(『近きに在りて』43、田中正俊氏追悼、2003年8月)、「柳田陽一氏の遺族(令妹節子)にきく」(『わだつみのこえ』119、18~30頁、2003年11月)。

矢吹 晋

- ①『鄧小平』(講談社、学術文庫、2003年8月、307頁)、③「対日新思考を考える」(『日本イメージ・中国イメージの形成に関する共同研究』、145~163頁、日中コミュニケーション研究会編、2004年3月)、「従日本看対日新思惟」(『中日関係新思惟与輿論』、108~33頁、東京 NICCS 刊、2003年12月)、「胡锦涛・温家宝体制の船出」(『中国情報ハンドブック』、蒼蒼社、2003年8月)、「胡锦涛・温家宝体制の船出」(『中国ハンドブック(韓国語)』、韓国経団連中国研究所訳、2003年)、「胡锦涛・温家宝体制への期待」(『世界週報』、2003年4月8日)、「胡锦涛七一講話」(『世界週報』、2003年7月22日)、「三中全会公報」(『世界週報』、2003年11月4日)、「日本の輸出景気を支える中国特需」(『世界週報』、2004年3月2日)、「知られざる中国政治①~⑤」(『東洋経済統計月報』、2003年10月~04年2月)、「田中角栄と毛沢東談判真相」(北京『百年潮』、2004年2月号)、「兩岸経済的連邦化正形成中」(台北『聯合報』、2004年3月18日)、「経済面での連邦化はすでに実現しつつある」(『中央公論』、2004年4月号122頁以下)、⑤「朝河貫一『武士道論』」(『中国巨龍』、2003年4月1日)、「楊中美『胡锦涛』」(『蒼蒼』、2003年4月)、「戴煌『神格化と特権に抗して』」(『中国巨龍』、2003年4月15日)、「清水美和『中国はなぜ反日になったか』」(『中国巨龍』、2003年5月27日)、「城谷武男『中国・わたしの場合』」(『中国巨龍』、2003年7月15日)、「渡辺浩平『中国ビジネスと情報のわな』」(『中国巨龍』、2003年7月29日)、「藤野彰『現代中国の苦悩』」(『中国巨龍』、2003年9月9日)、「王文亮『中国農民はなぜ貧しいのか』」(『東京新聞』、2003年9月28日)、「馮賓符『馮賓符国際問題文選』」(『中国巨龍』、2003年12月2日)、「暁白、暁珊編『中国人、食を語る』」(『中国巨龍』、2003年12月16日)、「2003年の5冊紹介」(『中国図書』、内山書店、2004年1月)、⑦「新体制の中国を読み解く」(『東亞』、霞山会、2003年4月号)、「鄧小平論(中国語)」(台湾日本綜合研究所、2003年10月25日)、「兩岸問題(中国語)」(台湾日本綜合研究所、2004年1月3日)、⑧「胡锦涛・温家宝体制への信任」(『山陽新聞』、2003年4月20日)、「銭其シン外交の腕の見せ所」(『信濃毎日新聞』、2003年5月20日)、「日中関係に好転の兆し」(『北海道新聞』、2003年6月1日)、「「新思考」掲げる胡体制」(『山陽新聞』、2003年8月31日)、「中国北朝鮮関係の深層」(『信濃毎日新聞』、2003年10月16日)、「中国指導者の不人気ワースト5」(『蒼蒼』、2003年4月)、「中国語

入試ミス事件』（『蒼蒼』、2003年6月）、「女紅軍鄧六金/人民元問題」（『蒼蒼』、2003年8月）、「中国・北朝鮮関係の真相」（『蒼蒼』、2003年10月）、「延安の娘」（『蒼蒼』、2003年12月）、「味 Dream Cuisine」（『蒼蒼』、2003年12月）、「保守派林治波のアナクロニズム」（『蒼蒼』、2003年12月）、「日中貿易と「中国+香港」貿易」（『中国巨龍』、2003年4月8日）、「中国版ストリピン改革」（『中国巨龍』、2003年4月22日）、「SARSの政治責任」（『中国巨龍』、2003年5月6日）、「SARSがあぶりだしたもの」（『中国巨龍』、2003年5月13日）、「消毒家電・マイカー・保険に追い風」（『中国巨龍』、2003年5月20日）、「時殷弘が論じた外交革命」（『中国巨龍』、2003年6月3日）、「胡锦涛のSARS言及の有無」（『中国巨龍』、2003年6月10日）、「中国富豪ランキングの百人」（『中国巨龍』、2003年6月17日）、「SARS禍をビジネスに活かす」（『中国巨龍』、2003年6月24日）、「胡锦涛七一講話」（『中国巨龍』、2003年7月1日）、「ドキュメンタリー-延安の娘」（『中国巨龍』、2003年7月8日）、「インターネット浸透」（『中国巨龍』、2003年7月22日）、「2003上期の流行語」（『中国巨龍』、2003年8月5日）、「一知半解の朝日特派員」（『中国巨龍』、2003年8月12日）、「対日新思考」（『中国巨龍』、2003年9月2日）、「沁園春・薩斯（サーズ）」（『中国巨龍』、2003年8月26日）、「田中角栄・毛沢東会談のナゾ」（『中国巨龍』2003年9月16日）、「要人往来に見る中朝関係」（『中国巨龍』、2003年9月23日）、「胡锦涛の西柏坡」（『中国巨龍』、2003年9月30日）、「新思考関係論文」（『中国巨龍』、2003年10月14日）、「廖承志通訳の役割」（『中国巨龍』、2003年10月21日）、「人民元専門家会議」（『中国巨龍』、2003年10月28日）、「人気没落陳水扁総統」（『中国巨龍』、2003年11月4日）、「山東料理映画・味」（『中国巨龍』、2003年11月11日）、「珠海千字宣言」（『中国巨龍』、2003年11月18日）、「ミスター政治家コンテスト」（『中国巨龍』、2003年11月25日）、「新思考のその後」（『中国巨龍』、2003年12月9日）、「温家宝の訪米」（『中国巨龍』、2003年12月23日）、「韓国の中国輸出」（『中国巨龍』、2004年1月27日）、「西気東輸」（『中国巨龍』、2004年1月20日）、「台北の新月」（『中国巨龍』、2004年1月13日）、「新思考シンポジウム」（『中国巨龍』、2004年1月6日）、「日本景気支える中国の好況」（『山陽新聞』、2004年2月1日）、「台湾海峡の猿芝居」（『東京新聞』、2004年2月2日）。

山内 弘一

- ①『朝鮮からみた華夷思想』（山川出版社、世界史リブレット67、2003年8月、94頁）、
- ②『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（「慶尚道」、東洋文庫、2004年3月）、③「味噌麴で二万二千両の税収を確保ほか——朝鮮王朝の文書史料を読む——」（『歴史家の工房』上智大学文学部史学科編、Sophia University Press、2003年4月、126～143頁）、⑦「沙溪金長王の祭礼説管見」（『沙溪金長王の学問と思想』、遼巖書院、韓国儒教学会主催、沙溪思想国際学術会議、2003年7月5日、61～73頁）、「朝鮮王朝後期の知識人と華夷思想」（『アジアのなかの韓国伝統文化——朝鮮朝の知——』、九州大学韓国研究センター

主催シンポジウム、2003年11月30日、15～20頁)、⑧「朝鮮儒教と書院(其之一)」(『漢文学解釈と研究』6、2003年12月、121～142頁)。

山根 幸夫

①『建国大学の研究——日本帝国主義の一断面』(汲古書院、2003年5月、iv+448+17頁)、『中国研究に生きて第3』(私家版、2004年2月、189頁)、③「呂坤の人とその著作——『実政録』の異本『居官必要』を中心に」(『明代史研究会創立三十五年記念論集』、517～536頁、汲古書院、2003年7月)、「明代史研究会小史」(『明代史研究会創立三十五年記念論集』、1～12頁、汲古書院、2003年7月)、④「2002年日本明代史論著目録」(『明代史研究』31、15～18頁、明代史研究会、2003年4月)、⑤「80歳まで研究者として現役でいたいと願った喜田昭治郎——『風の軌跡』書評」(『東方』276、34～38頁、東方書店、2004年1月)、⑧「哀悼周紹泉教授」(『明代史研究』31、9～12頁、明代史研究会、2003年4月)、「東洋文庫明代史研究室の消滅」(『明代史研究』31、41～44頁、明代史研究会、2003年4月)、「姫路高等学校へ入学したころ」(『旧制姫路高等学校創立八十周年記念誌・姫山の残照』、52～55頁、旧制姫路高等学校同窓会、2003年12月)、「編集後記」(『汲古』43、39頁、汲古書院、2003年6月)、「編集後記」(『汲古』44、138～139頁、汲古書院、2003年12月)。

山本 英史

①『現代中国の履歴書』(慶應義塾大学出版会、2003年5月、iv+230頁)、②『アジア遊学』56特集「中国の虚像と実像」(勉誠出版、2003年10月、192頁)、③「中国の当為と実在」(『アジア遊学』56、4～12頁、勉誠出版、2003年10月)、「一君万民のまぼろし」(『アジア遊学』56、44～54頁、勉誠出版、2003年10月)、⑦「地方志の編纂と地域社会」((財)東洋文庫春期東洋学講座、2003年5月13日、要旨:『東洋学報』85-2、135～137頁、(財)東洋文庫、2003年9月)、「赴任する知県——明清時代の地方官ネットワーク」(東京大学東洋文化研究所プロジェクト「アジア諸社会におけるエリートのネットワークと文化表象」平成15年度第1回研究会、2003年10月)、「北京餐厅のこの10年」(第54回学習院東洋文化研究所東洋文化講座、2003年11月11日)。

吉田 寅

②『宋史食貨志譯註(五)』(中嶋敏編、東洋文庫、2004年3月、全766頁、「塩」上・中項)、③「入華宣教師マルティンの著作活動について」(『異文化交流 木崎良平先生喜寿記念特別号』、1～9頁、2003年4月)、「中国プロテスタント医療伝道とその発展」(『日本プロテスタント史研究会報告』77、1～9頁、2003年10月)。

吉田 伸之

- ①『身分的周縁と社会=文化構造』（部落問題研究所、2003年11月、466頁）、②『大江戸日本橋絵巻——「熙代勝覧」の世界』（〈浅田秀剛〉、講談社、2003年10月、103頁）、③「江戸の積問屋と舁下宿」（『国立歴史民俗博物館研究報告』103、447～454頁、国立歴史民俗博物館、2003年10月）、④「描かれた売りの諸相」（『大江戸日本橋絵巻』、94～100頁、講談社、2003年10月）、⑤「総説」（『史学雑誌』112-5、1～5頁、史学会、2003年5月）、⑥「塚田孝著『歴史のなかの大坂』（『部落問題研究』167、74～81頁、部落問題研究所、2004年4月）、⑦「地域史研究事業について——長野県飯田市の場合」（日本歴史学協会「史料学・史料館員」問題シンポジウム、2003年6月7日、学習院大学）、「描かれた売りの諸相」（「とらっど2」シンポジウム、2003年7月25日、ケンブリッジ大学ニューホール・カレッジ）、「『成熟する江戸』と現代社会——土地との関わりを中心に」（日本不動産研究所「江戸開府400年」特別講演会、2003年9月10日、要旨：『不動産調査月報』308/309、2～16頁、日本不動産研究所、2003年12月）、「両国の成立」（東京大学象形文化研究拠点主催シンポジウム、2004年1月27日、東京大学弥生講堂）、「近世前期、江戸町人地・内・地域の分節構造」（大阪市立大学 COE 主催シンポジウム「東アジア近世都市における社会的結合」2004年3月21日、大阪市立大学学術情報総合センター）。

吉田 光男

- ②『韓国朝鮮の歴史と社会』（放送大学教育振興会、2004年3月、235頁）、『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（「漢城府・京畿道・慶尚道・平安道」、東洋文庫、2004年3月）、③「韓国近世史研究のこれから」（『しにか』170、2004年3月）、⑥韓永愚『韓国社会の歴史』（明石書店、2003年6月）。

吉田 豊

- ③“Buddhist influence on the bema festival?”, in: C. G. Cereti, M. Maggi and E. Provasi (eds.), *Religious themes and texts of pre-Islamic Iran and Central Asia. Studies in honour of Professor G. Gnoli on the occasion of his 65th birthday on 6th December 2002*, Wiesbaden, 2003, pp.453-458, “Chamuk: A name element of some Sogdian rulers”, in: D. Durkin-Meisterernst (ed.), *Turfan revisited: The first century of research into the arts and cultures of the Silk Road*, Berlin, 2003, pp.xx-yy. “Some reflections about the origin of čamūk”, in: T. Moriyasu (ed.), *Aspects of international trades and cultural exchanges as seen from the textual and material remains unearthed from Central Asia*, Osaka, 2004, pp. 127-135、⑤Nicholas Sims-Williams, *Bactrian documents from Northern Afghanistan. I: Legal and economic documents*, Studies in the Khalili collection, Volume 3; Corpus Inscriptionum Iranicarum, Part II, Volume VI :

Bactrian, Oxford University Press, Oxford, 2000, 255pp. (Bulletin of the Asia Institute 14, 2000 [2003] pp.154-159)、E. de la Vaissiere, *Histoire des marchands sogdiens*, Paris, 2002 (Jornal of the Royal Asiatic Society, 2004, pp.xx-yy)、S. Kuwayama, *Across the Hindukush of the first millennium. A collection of the papers*, Kyoto, 2002. (『史林』86-6、2003年、pp.118-124.)、⑧Appendix to V. Hansen's review article: "New work on the Sogdians, the most important traders on the Silk Road, A.D. 500-1000", in: T'ounPao 89, 2003, pp.149-161 [Yoshida's contribution: pp.159-161]、"ソグド文字とソグド語"、"ソグド人の世界" (『NHKスペシャル 文明の道 ③海と陸のシルクロード』東京 2003年 90~99頁、181~201頁)、「イラン語圏の仏教信仰とイラン語仏典」(2003年3月)『「古典学の再構築」研究成果報告集 II A01「原典」調整班研究報告 論集「原典」』217~235頁。

六反田 豊

②『韓国朝鮮の歴史と社会』(吉田光男編、第4章・第5章執筆、放送大学教育振興会、2004年3月、235頁)、『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』(「忠清道・慶尚道」、東洋文庫、2004年3月)、③「朝鮮時代の儒教教育機関」(『アジア遊学』50、81~93頁、勉誠出版、2003年4月)、「朝鮮後期済州島民の漂流と出身地詐称」(『文明のクロスロード Museum Kyushu』20-1、49~56頁、博物館等建設推進九州会議、2003年5月)、⑥「李憲昶『韓国経済通史』(須川英徳と共監訳、法政大学出版局、2004年3月、ix+795頁)。

IV 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

①会議事項

(理 事 会)

第321回 開催日 平成15年6月3日(火曜日)
出席者 斯波義信、原 啓芳、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫
草原克豪、佐藤次高、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝
若井恒雄
委任状 西田龍雄

第322回 開催日 平成15年6月3日(火曜日)
出席者 斯波義信、原 啓芳、石井米雄、岩崎寛彌、草原克豪
佐藤次高、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、若井恒雄
委任状 西田龍雄、原 實

第323回 開催日 平成15年12月2日(火曜日)
出席者 斯波義信、原 啓芳、石井米雄、佐藤次高、田仲一成
西田龍雄、原 實、若井恒雄
委任状 草原克豪、鶴見尚弘、中根千枝

(評議員会)

第149回 開催日 平成15年6月3日(火曜日)
出席者 岸本美緒、後藤 明、松村 潤
委任状 安西祐一郎、池端雪浦、佐々木毅、佐竹昭広、高木丈太郎
長尾 真、前田充明、横原 稔、間野英二

第150回 開催日 平成15年12月2日(火曜日)
出席者 大崎 仁、岸本美緒、後藤 明、佐竹昭広、濱下武志
松村 潤
委任状 安西祐一郎、池端雪浦、梅村 坦、佐々木毅、白井克彦
高木丈太郎、長尾 真、横原 稔、間野英二

(東洋学連絡委員会)

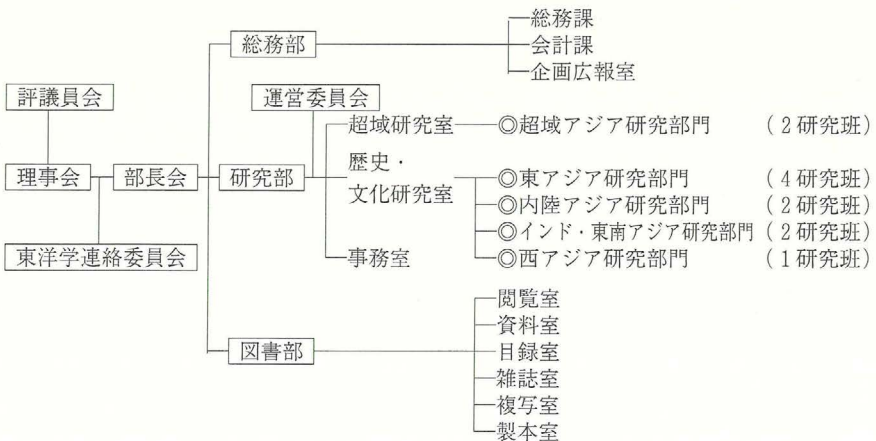
前期 開催日 平成15年 5月20日(火曜日)
出席者 斯波義信(委員長)、石井米雄、尾崎 康、神田信夫
竺沙雅章、中根千枝、西田龍雄、森本公誠
議 題 1. 委員の交替について
2. 平成14年度財団法人東洋文庫事業報告について
3. 平成15年度財団法人東洋文庫事業計画について
4. その他

後期 開催日 平成15年11月18日(火曜日)
出席者 斯波義信(委員長)、石井米雄、尾崎 康、中嶋 敏
中根千枝、西田龍雄
議 題 1. 平成15年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 平成16年度財団法人東洋文庫事業計画案について

②総務・広報事項

・平成15年4月1日 研究部研究新体制が発足しました。伝統的手法によるアジア諸地域の歴史・文化研究の充実を図ると共に、新しく現代史的視点に立つ学際的な超域アジア研究を展開することとなり、従来の5部門12研究委員会体制から、新編成の5部門11研究班体制となりました。

(新組織図は下記のとおりです。)



- ・平成15年12月23日から平成16年1月12日まで、『東洋文庫名品展』を開催しました。東京都千代田区の江戸開府400年記念事業へ協力事業として、また平成16年の当文庫創立80周年記念事業の一環として開催したものであります。

1. 名称 東洋文庫名品展（副題：北斎、歌麿、写楽…秘蔵の浮世絵から東方見聞録、解体新書まで）
2. 会期 平成15年12月23日（火・祝）～平成16年1月12日（月・祝）
20日間（1月1日のみ休館）
3. 会場 丸の内ビルディング7階 丸ビルホール
4. 主催 千代田区江戸開府400年記念事業実行委員会
東洋文庫、NHK、日本経済新聞社
5. 特別協賛 三菱地所
6. 協賛 三菱グループ
7. 入場者数 総入場者数 22,815人（1日平均1,141人、最高2,318人）
8. その他 図録販売数 3,002冊（7.6人/1冊）

なお、総費用7,128万円強のうち当文庫は500万円を負担いたしました。

③設備・営繕事項

- ・研究部研究新体制発足に伴う研究部・図書部諸室の移動・再配置工事を実施いたしました。
- ・この結果、研究部関係は、4階及び5階（平成15年3月末終結したユネスコセンター跡スペース）に集約され、5階に共同研究室・共同図書室が新設されました。
- ・図書部関係は書庫を除き3階に集約されることとなり、1階にあった製本室と複写室は3階へ移動し、製本室及び複写室の跡スペースは、書庫不足に対する応急設置として、臨時書庫に転用いたしました。
- ・建物・設備の経年劣化（本館＝築後20年、別館＝築後35年）が進み、とくにボイラ・空調設備の老朽化が深刻な局面を迎えつつあります。今後抜本的措置が必要と考えられますが、平成15年度に実施した主な営繕・補修関係は下記のとおりです。
 1. ボイラ及び油送管補修
 2. 空調設備（外調機・バルブ・配管等）補修
 3. 電気ボックス（外配線漏電防止用）全面取替え等

2. 人 事 報 告

i. 役員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
15.6.3	理 事	神 田 信 夫	退 任	
〃	評 議 員	岡 野 澄	〃	
〃	〃	奥 島 孝 康	〃	
〃	〃	前 田 充 明	〃	
〃	理 事	原 實	就 任	
〃	評 議 員	梅 村 坦	〃	
〃	〃	大 崎 仁	〃	
〃	〃	白 井 克 彦	〃	
〃	〃	濱 下 武 志	〃	

ii. 東洋学連絡委員会委員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
15.4.1	委 員	石 井 米 雄	委 嘱	
〃	〃	神 田 信 夫	〃	
〃	〃	中 根 千 枝	〃	
15.12.30	〃	神 田 信 夫	逝 去	

iii. 顧問異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
15.12.16	名 譽 顧 問	北 村 甫	逝 去	

iv. 職員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
15.4.1	研究顧問	石 井 米 雄	委 嘱	
〃	研究員（専任）	瀧 下 彩 子	転 任	
〃	研究員（兼任）	濱 下 武 志	委 嘱	
〃	〃	毛 里 和 子	〃	
〃	〃	興 梶 一 郎	〃	

年月日	役職名	氏名	区分	備考
15.4.1	研究員(兼任)	唐亮	委嘱	
〃	〃	青山瑠妙	〃	
〃	〃	中兼和津次	〃	
〃	〃	田中明彦	〃	
〃	〃	平野健一郎	〃	
〃	〃	小杉泰	〃	
〃	〃	黒田卓	〃	
〃	〃	吉村慎太郎	〃	
〃	〃	松永泰行	〃	
〃	〃	設楽国広	〃	
〃	〃	新井政美	〃	
〃	〃	粕谷元治	〃	
〃	〃	長沢栄治	〃	
〃	〃	池田美佐子	〃	
〃	〃	関本照夫	〃	
〃	〃	大沢正昭	〃	
〃	〃	寺田浩明	〃	
〃	〃	濱島敦俊	〃	
〃	〃	山本英史	〃	
〃	〃	塩沢裕仁	〃	
〃	〃	清水信行人	〃	
〃	〃	井上和人	〃	
〃	〃	早乙女雅博	〃	
〃	〃	奥村哲	〃	
〃	〃	金丸裕一	〃	
〃	〃	弁納才一	〃	
〃	〃	富澤芳一	〃	
〃	〃	曾田三郎	〃	
〃	〃	松重充浩	〃	
〃	〃	三谷孝	〃	
〃	〃	六反田豊	〃	
〃	〃	今西祐一郎	〃	
〃	〃	庄垣内正弘	〃	
〃	〃	吉田豊	〃	

年月日	役職名	氏名	区分	備考
15.4.1	研究員(兼任)	濱田正美	委嘱	
〃	〃	荒川正晴	〃	
〃	〃	関尾史郎	〃	
〃	〃	水野善文	〃	
〃	〃	弘末雅士	〃	
〃	〃	嶋尾稔	〃	
15.12.1	〃	浅野秀剛	〃	
〃	〃	衛藤藩吉	〃	
〃	〃	田仲一成	〃	
〃	〃	矢吹晋	〃	
15.12.16	〃	北村甫	逝去	
15.12.30	〃	神田信夫	〃	
16.3.31	〃	池端雪浦	退任	
〃	〃	福田洋一	〃	

3. 会 計 報 告

平成15年度収支計算書
 (自 平成15年4月1日)
 (至 平成16年3月31日)

(単位：千円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
経 常 費	142,464	科 学 研 究 費 補 助 金	110,000
人 件 費	111,134	維 持 会 費 収 入	27,200
事 務 費	31,330	寄 付 金 収 入	20,253
事 業 費	121,683	財 産 収 入	72,379
Ⅰ調査研究費	31,517	研 究 活 動 収 入	7,807
Ⅱ資料収集・整理費	45,189	雑 収 入	708
Ⅲ研究資料出版費	21,463	建物等修繕積立預金取崩収入	6,000
Ⅳ普及活動費	11,831	運営調整積立預金崩収入	19,800
Ⅴ学術情報提供費	11,683		
支 出 合 計	264,147	収 入 合 計	264,147

(注) 上表は一般会計に関するものである。

平成15年度貸借対照表 (総括表)

(平成16年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	8,716	流 動 負 債	2,185
固 定 資 産	5,343,824	固 定 負 債	68,145
(1) 基 本 財 産	5,027,289	負 債 合 計	70,330
(2) その他の固定資産	316,535	正 味 財 産	5,282,210
資産合計	5,352,540	負債及び正味財産合計	5,352,540

(注) 一般会計のほか、特別会計・特定会計を含む。

V 役 職 員 名 簿

平成16年3月31日現在の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	斯 波 義 信	東洋文庫理事長 日本学士院会員
専務理事	原 啓 芳	東洋文庫専務理事
理 事	石 井 米 雄	神田外語大学学長 京都大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社社長
〃	草 原 克 豪	拓殖大学副学長
〃	佐 藤 次 高	早稲田大学教授 東京大学名誉教授
〃	田 仲 一 成	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学学長 横浜国立大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	原 實	国際仏教学大学院大学理事長 日本学士院会員
〃	若 井 恒 雄	株式会社東京三菱銀行特別顧問
監 事	種 田 公 二	株式会社パスコ元監査役
〃	東 條 和 彦	三菱金曜会事務局長
評 議 員	安 西 祐 一 郎	慶應義塾塾長
〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学学長
〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	大 崎 仁	国立学校財務センター所長
〃	岸 本 美 緒	東京大学教授
〃	後 藤 明	東洋大学教授 東京大学名誉教授

役職名	氏名	現職
評議員	佐々木 毅	東京大学学長
〃	佐竹 昭広	京都大学名誉教授
〃	白井 克彦	早稲田大学総長
〃	高木 丈太郎	三菱地所株式会社相談役
〃	長尾 真	京都大学前学長
〃	濱下 武志	京都大学東南アジア研究センター教授
〃	榎原 稔	三菱商事株式会社会長
〃	松村 潤	日本大学名誉教授
〃	間野 英二	京都大学名誉教授

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	斯波 義信	東洋文庫理事長
委員	石井 米雄	神田外語大学学長 京都大学名誉教授
〃	尾崎 康	帝京大学教授
〃	興膳 宏	京都国立博物館館長 京都大学名誉教授
〃	竺沙 雅章	京都大学名誉教授
〃	中嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中根 千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	日比野 丈夫	京都大学名誉教授
〃	間野 英二	京都大学名誉教授
〃	森本 公誠	東大寺上院院主 東大寺学園理事長

3. 名誉研究員

氏名	現職
W.T.ドゥ・バリイ	コロンビア大学教授
J.ジエルネ	コレージュ・ド・フランス名誉教授 フランス学士院会員
H.フランケ	ミュンヘン大学名誉教授

4. 職員

(平成16年3月31日現在)

部名	職名	氏名
総務部	部長	原 啓 芳 (専務理事兼務)
〃	課長	光 田 憲 雄
〃	会計係長	金 子 祐 子
〃	参事	中 沢 元 幸 橘 伸 子 藤 村 由 美 子
〃	常勤嘱託	長谷川 茂 広 秋 葉 喜 八

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	佐 藤 次 高	早稲田大学教授
〃	研究顧問	石 井 米 雄	神田外語大学学長
〃	研究員(兼任)	青 山 瑠 妙	早稲田大学助教授
〃	〃	浅 野 秀 剛	千葉市美術館学芸課長
〃	〃	荒 松 雄 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	新 井 政 美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒 川 正 晴	大阪大学教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	飯 島 武 次	駒沢大学教授
〃	〃	池 田 温	創価大学特任教授
〃	〃	池 田 美 佐 子	光陵女子短期大学助教授
〃	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学学長
〃	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国土館大学教授
〃	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学助教授
〃	〃	井 上 和 人	奈良文化財研究所室長
〃	〃	今 西 祐 一 郎	九州大学教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学教授
〃	〃	宇都木 章	青山学院大学名誉教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	衛 藤 藩 吉	東京大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
〃	〃	大 谷 俊 太	奈良女子大学助教授
〃	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	奥 村 哲 哲	東京都立大学教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	風 間 喜代三	東京大学名誉教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学講師
〃	〃	槽 谷 憲 一	一橋大学教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館アジア太平洋大学助教授
〃	〃	辛 島 昇	大正大学教授
〃	〃	川 崎 信 定	東洋大学教授
〃	〃	菊 池 英 夫	中央大学元教授
〃	〃	岸 本 美 緒	東京大学教授
〃	〃	草 野 靖	熊本大学元教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学教授
〃	〃	窪 添 慶 文	お茶の水女子大学教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学助教授
〃	〃	気賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	興 栢 一 郎	神田外語大学助教授
〃	〃	小 杉 泰	京都大学教授
〃	〃	後 藤 明	東洋大学教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
〃	〃	早乙女 雅 博	東京大学助教授
〃	〃	酒 井 憲 二	調布学園短期大学名誉教授
〃	〃	桜 井 由躬雄	東京大学教授
〃	〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	法政大学講師

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
〃	〃	設 楽 国 広	立教大学教授
〃	〃	蔀 勇 造	東京大学教授
〃	〃	斯 波 義 信	東洋文庫理事長
〃	〃	嶋 尾 稔	慶應義塾大学助教授
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	清 水 信 行	青山学院大学教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	東洋文庫研究員
〃	〃	庄垣内 正 弘	京都大学教授
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	関 尾 史 郎	新潟大学教授
〃	〃	関 本 照 夫	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学教授
〃	〃	武 田 幸 男	岐阜聖徳学園大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
〃	〃	田 中 明 彦	東京大学東洋文化研究所長
〃	〃	田 仲 一 成	東京大学名誉教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	田 村 晃 一	青山学院大学名誉教授
〃	〃	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授
〃	〃	千 葉 禎 長	桐朋学園大学名誉理事長
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学助教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学長
〃	〃	寺 田 浩 明	京都大学教授
〃	〃	唐 亮	横浜市立大学助教授
〃	〃	朽 尾 武	成城大学教授
〃	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	島根大学助教授
〃	〃	鳥 海 靖	中央大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	中 兼 和津次	青山学院大学教授
〃	〃	長 沢 栄 治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
〃	〃	永 積 洋 子	東京大学元教授
〃	〃	中 野 真麻理	国文学研究資料館助手
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学助教授
〃	〃	長谷川 誠 夫	慶応義塾大学講師
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学教授
〃	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
〃	〃	濱 下 武 志	京都大学東南アジア研究センター 教授
〃	〃	濱 島 敦 俊	暨南国際大学教授
〃	〃	濱 田 正 美	神戸大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学助教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	原 實	国際仏教学大学院大学理事長
〃	〃	平 野 健一郎	早稲田大学教授
〃	〃	弘 末 雅 士	立教大学教授
〃	〃	深 沢 眞 二	和光大学助教授
〃	〃	福 田 洋 一	大谷大学助教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学助教授
〃	〃	星 実千代	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所研究員
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学教授
〃	〃	堀 敏 一	明治大学名誉教授
〃	〃	本 庄 比佐子	東洋文庫研究員
〃	〃	松 重 充 浩	日本大学助教授
〃	〃	松 永 泰 行	日本大学助教授
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学助教授
〃	〃	三 谷 孝	一橋大学教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学教授
〃	〃	矢 沢 利 彦	埼玉大学名誉教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良大学教授
〃	〃	柳 田 節 子	学習院大学元教授
〃	〃	矢 吹 晋	横浜市立大学教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 崎 元 一	国学院大学教授
〃	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
〃	〃	山 本 英 史	慶応義塾大学教授
〃	〃	吉 田 寅 寅	立正大学元教授
〃	〃	吉 田 光 男	東京大学教授
〃	〃	吉 田 豊	神戸市外国語大学教授
〃	〃	吉 村 慎 太郎	広島大学助教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学助教授
〃	〃	和 田 博 徳	慶応義塾大学名誉教授
〃	〃	和 田 恭 幸	国文学研究資料館助手
〃	〃	渡 辺 紘 良	東洋文庫研究員
〃	研究員(専任)	松 本 明 子	
〃	〃	瀧 下 彩 子	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	田 仲 一 成
〃	東洋文庫長	井 坂 清 信※
〃	文庫長補佐	西 蘭 一 男※
〃	閱 覧 係 長	中善寺 慎※
〃	副 主 査	牧 武※ 辺 見 由起子※
〃	司 書	桜 井 徹 山 村 義 照 沢 崎 京 子※ 篠 崎 陽 子 関 さやか※ 大 沼 宣 規※

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5. 臨時職員

部 名	氏 名
総務部	豊田典子
研究部	石川博樹 今泉牧子 金子由紀 亀田恵子 木村 暁 小羽田誠治 坂田友美 島田志津夫 高井秀招 飛田康裕 濱本真実 蛭田展充 深澤貴行 福地智子 堀内淳一 洪 成和 吉田勇一郎 吉村武典
図書部	會谷佳光 青木雅浩 磯山栄身 岩見 隆 上田直美 植松宏之 梅村 卓 大河原洋子 大木康子 大沢裕子 大塚 修 尾崎祐司 梶山智史 加藤良輔 金 哲 呉 吉煥 後藤智子 佐藤美加 塩谷哲史 清水一枝 清水保尚 臧 世俊 高木雅弘 高田まゆみ 谷家章子 田村行生 辻 明日香 露口哲也 寺西澄子 外川和雅 登利谷正人 中川真規子 西川和孝 深野明子 深見和子 藤波伸嘉 前島佳孝 水谷 悟 目黒 輝 本村育恵 森岩紀賢 山崎益裕 由布義雄

財団
法人 東洋文庫年報 平成15年度

平成16年10月1日 発行 非売品

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫
斯波義信

印刷者 富士リプロ株式会社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

本書は財団法人東洋文庫に対する平成16年度文部科学省補助金の一部に依って刊行されたものである。